飯田女子短期大学紀要 第39集，147-180，2022

FD研究

学生自身が捉えているディプロマ・ポリシーへの到達状況をもとにしたカリキュラムの検討

～飯田女子短期大学専攻科地域看護学専攻学生を対象として～

細田せい子・松尾由貴子・遠 山 清 香・細 田 裕 子

Based on the Students' Own Perception of Their Attainment of the Diploma Policy Curriculum Considerations

～ for Students of Iida Women's Junior College Majoring in Community Nursing ～

Seiko Hosoda, Yukiko Matsuo, Sayaka Tooyama and Hiroko Hosoda

要旨：本研究は，本学専攻科地域看護学専攻で保健師教育のカリキュラムを修得した学生達は，DP（Diploma Policy；修了認定の基本方針）についてどのような学びを得て，どれくらい到達したと捉えているか明らかにすることを目的とした．必須科目の履修を修了した学生を対象とし，フォーカス・グループ・インタビューを実施し分析した．その結果，【講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった】，【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】，【予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた】，【実習の現場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ】の様な学びの実感を得ると共に，【自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった】と，今後，保健師として成長することを前向きに捉えていた．

Key words：保健師教育（public health nurse education），公衆衛生看護学（public health nursing），ディプロマポリシー（diploma policy）

はじめに

保健師教育変遷の背景には，少子高齢化の進展・急速な人口減少・社会格差や健康格差の広がりとそれに伴う複雑で深刻な健康問題・頻発する災害・国際的な感染症対策等に対する社会要請がある[1]．1951年に制定された保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則は，制定後も改正を重ねており，保健師教育に必要とされるカリキュラムも時代の変遷を背景に変化してきている[2]．

さらに2022年には，昨今の災害の多発，児童虐待の増加等により減災や健康危機の予防・防止が重要となる社会背景を受け，保健師助産師看護師学校指定規則改正において保健師教育内容の第6次改正が行われることとなった[3]．これは疫学データおよび保健統計等を用いて地域をアセスメントし，多様化する健康危機に備えた取組を展開する能力，健康課題を有する対象への継続的な支援と社会資源の活用等を実践する能力，ケアシステム構築や地域ニーズに則した社会資源の開発等

2022年3月24日受付；2022年5月27日受理

を推進するための施策化能力の強化を目指している．

2018年5月現在の保健師学校・養成所数は，大学は231校，短期大学専攻科は5校，大学院は13校であり，大学における保健師教育課程は約9割が選択制となっている[4]．このような教育体制の中，全国保健師教育機関協議会が2018年に行った保健師基礎教育調査[5]の結果をもとに岸[1]は，現在の保健師基礎教育の実態として，実践能力を強化するための教育改善，実践能力を効果的に育成する教育体制・教育環境の整備，ケアシステムの構築にかかわる実践能力の育成が課題であると述べている．

以上のような保健師教育の現状の中，本学専攻科地域看護学専攻では全国的に数少ない1年課程の保健師養成校として，看護師免許取得後に保健師養成に関する教育を1年間集中して学んでいる．その課程では，本学修了後の現場で活用できる実践力の養成を目指し，表１に示したディプロマポリシー（以下，DP），カリキュラムポリシー（以下，CP）の教育方針に基づきカリキュラムを設定している．その中で，2022年保健師助産師看護師学校指定規則改正に向け，カリキュラム編成を再構築するにあたり，DPに関する到達度の客観的評価を行い，社会情勢の中で求められる保健師教育に向けたカリキュラムの改正作業に取り組む必要性があると考えた．

表１　令和２年度　専攻科 地域看護学専攻
教育方針　＊CP, DPのみを抜粋

CP

１．実践に適用できる公衆衛生看護の知識と技術を学ぶ

時代の流れに沿って変化するニードへの対応が求められる公衆衛生看護の展開に必要な知識・態度・技術を習得するために，現任保健師から「現場の今」を学べる講義を盛り込むとともに，様々な施設で多彩な実習を設定している．

２．公衆衛生看護活動に重要な予防的視点を学ぶ

看護の基礎知識から発展させて生活と体との関連を理解し，予防のために必要な保健行動とそこへの支援とは何かをディスカッションを交えながら自ら考えることのできる授業を設定している．

３．地域全体の健康づくりに貢献するために必要な個別課題と地域課題とを繋げて考えることのできる視点を学ぶ

個人の健康課題を深く追求するとともに，それらを地域共通の課題として統合して考えていけるための授業や実習を設定している．特に，長期の実習期間の中で出会う多くの住民の方から学んだ学生自身の実体験を基にこれらを習得できる形態をとることを大切にしている．

４．地域住民・関連職種との連携・協働の必要性とその方法を学ぶ

授業では現場で活躍する他職種の講師から学ぶ機会とともに，共通課題について考えるグループディスカッションの場を多く設定している．さらに実習では実際に保健師が連携，協働している場面に参加する機会を設定している．

５．保健師としての専門性を継続的に探究していくための基礎を学ぶ

自ら探求していきたい課題を抽出し，それを解決するための手法を身に着けるために公衆衛生看護学研究の授業および個別指導を設定している．

DP

１．実践に適用できる公衆衛生看護の知識と技術をもった学生

２．予防的視点をもって公衆衛生看護活動に取り組むことができる学生

３．個別課題と地域課題とを繋げて考えることのできる視点をもち，地域全体の健康づくりに貢献できる学生

４．地域住民・関連職種との連携・協働する視点をもって公衆衛生看護活動に取り組むことができる学生

５．人間として専門職として自らが成熟することを求めることができる学生

研 究 目 的

本学専攻科地域看護学専攻が提示しているDPのもと構成されたカリキュラムを修得した学生達は，DPで示されている項目についてどのような学びを得て，どれくらい到達したと捉えているのかを明らかにし，今後のカリキュラム編成の一資料とする．

カリキュラムの概要

カリキュラムの概要を表２に示す．前期・後期に行われる公衆衛生看護学実習を軸として，現場での事象を理解するための授業構成を組んでいる．前期においては，まず講義を通して公衆衛生看護の理念・原理原則をはじめとした保健師活動に必要な知識・技術を習得することを目的としている．次に演習を通して，学んだ理念・原理原則を具体的な知識・技術とともに活用する試みを行う．さらに実習を通して，保健師の実践活動を見聞きし，学生自身が行う住民への援助や地域の実態把握，その地域に必要な公衆衛生看護活動を考える取り組みを行い，講義・演習で学んだ公衆衛生看護の理念・原理原則を確かめる．後期・通年授業においては実習での学びを統括し，理念・原理原則という抽象的な概念と具体的な実践活動を結びつけることを目指し，学習を重ねる．

研 究 方 法

１．調査対象

フォーカス・グループ・インタビュー（以降，FGIと記す）

2020年度本学専攻科地域看護学専攻に在籍する学生11名のうち，研究の了承を得た9名のデータを収集した．

２．調査期間

2021年1月25日～2月1日

３．調査・分析方法

対象者9名を，5名と4名の2つのグループに編成し，ICレコーダーに録音する許可を得て各1時間程度のインタビューを実施した．

FGIは作成した手引き書を用い，調査のテーマに関して参加者が自由に幅広く話し合えるように留意した．インタビューのテーマは，「自分は，DPで示されている力をつけるための知識と技術を本学カリキュラムのどの場面でどのように学び，その学びをもとにどれくらい修得できたと考えるか」とした．

表２　カリキュラムの概要
－令和2年度 開設科目と実施時期－

月	講義		実習
	半期授業	通年授業	
4月	入学		
5月	公衆衛生看護学概論 保健指導論 家族支援論 地域精神看護活動論 公衆衛生看護特別講座 学校保健活動論 疫学 保健統計学Ⅰ 公衆衛生看護学研究Ⅰ	地域活動論 健康生活論 母子公衆衛生看護活動論 成人・高齢者公衆衛生看護活動論 保健統計学Ⅱ 保健医療福祉行政論Ⅰ	公衆衛生看護学実習Ⅰ （市町村実習）
6月			
7月			
8月	公衆衛生看護管理論 産業保健活動論 保健医療福祉行政論Ⅱ 公衆衛生看護学研究Ⅱ		公衆衛生看護学実習Ⅱ （市町村実習） （保健福祉事務所実習） （医療施設見学実習） （事業所見学実習） （福祉施設見学実習）
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月	修了		

分析対象はインタビューの内容とし，以下の手順に沿って，質的帰納的方法で分析を行った．

(1) 録音されたディスカッションの内容は，対象者を記号化して逐語録に起こした．

(2) 逐語録を熟読し，DPで示されている項目についてどのような学びを得て，どれくらい到達したと捉えているのかについて語られている部分を抽出し，可能な限り対象者の言葉を用いてコード化した．

(3) 抽出したコードの類似と相違・差異に留意しながら，サブカテゴリーを生成した．さらにサブカテゴリーを類似化から分類し，カテゴリーを生成した．この過程は，学生はCPで示されている学びをどの場面でどのように学び，その学びをもとに自分はどれくらいDPに記された項目に到達できたと考えているかが明確になるように行った．分析は，信頼性を確保するために研究者の意見が一致するまで議論した．

４．倫理的配慮

研究計画は，飯田女子短期大学研究倫理審査会の審査を経て，承諾（令2-2）が受けられた後，調査を開始した．令和2年度飯田女子短期大学専攻科地域看護学専攻に在籍し，必須科目の履修を修了した学生に対して，研究の目的，方法，倫理的配慮を文書および口頭で説明し，研究協力を依頼した．

研究協力の得られた学生には再度，研究の目的，方法，倫理的配慮を文書と口頭で説明し，その後，同意書への署名もって研究対象者とした．

結　　果

11名の学生に研究依頼をし，9名から研究協力の了承を得た．FGIは，5名と4名のグループに分けて実施した．

以下，質問項目ごとに，カテゴリー別分析結果を記載する．なお，カテゴリーを【 】，サブカテゴリーを〈 〉，コードは「 」で表す．

１．各質問項目別の結果

１）実践に適用できる公衆衛生看護の知識を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表３）

学生の語りから，15個のコードが抽出された．さらに分析した結果，9個のサブカテゴリー，4個のカテゴリーが抽出された．抽出されたコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表３に示す．

抽出されたカテゴリーは，【学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで，保健師とは何をする人なのかの理解が深まった】，【グループディスカッションやレポート作成により，視野が広がり，知識の定着につながった】，【講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった】，【得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい】であり，【学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで，保健師とは何をする人なのかの理解が深まった】について一番多く語られていた．

(1)【学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで，保健師とは何をする人なのかの理解が深まった】

学生たちは4月から始まったカリキュラム開始当初の様子を「講義だけでは何が何故大切なのか理解しづらかった」，「講義の内容を理解するために何かと関連づけたかったが，何と関連づけて良いのか最初はわからなかった」と，〈講義の内容だけでは，関連づけて捉えるものがなく理解しづらかった〉状況を語っていた．その中で，「概論などで基本的で一般的な知識を聞くだけでは，実際にどうやっているのかがわからなかった部分があったが，現場で実践している外部講師の話を聞くことで習った知識と結びついて，自分の中

でどんどん知識が積み重なっていった」と〈学内教員と外部講師の講義の両方を聴くことで知識と現場の様子が繋がり，自分の本当の知識として定着した〉という講義での学びの積み重ねの様子が語られた．さらに「実習で現場を見ることで，授業で得た知識が『こういうことか』と理解できた」と〈現場の様子を実際に見ることで，授業で得た知識が自分の中で納得した理解となった〉段階を経た学びを通して，漠然とした知識から自分自身が納得のできる知識を修得していく過程の様子を語っていた．こういった自身の学びの過程を振り返り，「講義だけでは，保健師は何をする人なのかうまく説明できなかったが，学内のグループディスカッション，臨地実習で保健師・住民・連携する他職種の人達と話すことにより，それぞれが捉えている保健師像が見えてきて，それを教科書等で再確認することで，自分自身の中で保健師とは何かが明確になってきた」，「授業で話を聞くだけでは，理解しきれないことも多いが，学生間で共有して『これってどういうことだろう』と考えたり，わからないことを先生や実習先の保健師，いろいろな職種の方に尋ねたり，実際の現場を見たりして，自分から動くことで保健師の仕事というものがわかってきた」と，〈講義だけでは『保健師とは何をする人なのか』が自分のものとして捉えにくかったが，その後の学内活動や実習の様々な場面で能動的に動くことで，自分の言葉で理解できるようになってきた〉と考えていることが明らかになった．このように自らの公衆衛生看護に関する知識について，【学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで，保健師とは何をする人なのかの理解が深まった】様子を振り返っていた．

(2)【グループディスカッションやレポート作成により，視野が広がり，知識の定着につながった】

学習の積み重ねの中で，学びを深めるために行ったグループディスカッションや学びの整理のために出されたレポートの課題について学生たちは，「自分だけでは偏った理解になりがちなところを学生間で意見交換することで，広い視野が持て自分の思考の偏りにも気づけた」と，〈グループディスカッションを重ねる中で，自分の偏った理解に気づき，視野の広い理解につながった〉様子を語っており，さらに「レポートが多いので，授業だけでは定着しにくい知識もレジメを再確認しながら自分の学びを振り返ることができ，知識を身につけるために役立った」と〈数多く出されるレポート課題に取り組むことにより，授業内容を振り返り，自身の学びの整理となり，知識定着に役立った〉様子を語っていた．

(3)【講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった】

こういったプロセスの中で，〈前期の早い時期に保健指導のために強化すべき知識を講義・演習を通して整理したことは，実践に必要な知識強化に役立った〉，〈国試の勉強をする中で，講義や実習の内容が自分の知識として定着していることを実感できる〉として，学んだ知識が自分自身のものになった場面を振り返っていた．

(4)【得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい】

さらに，「生活習慣病の指導で必要となる疾患の機序は，勉強して知識を深めることができたが難しい部分もあり，これからも勉強してもっと知識を深めていかなくてはいけないなと思っている」と，自己の得た知識は，実際に保健師として現場で活躍していくためには更なる学習が必要であることを実感する発言もあり，〈得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい〉と，今後の自身の知識向上への意欲が語られていた．

表３　実践に適用できる公衆衛生看護の知識を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで，保健師とは何をする人なのかの理解が深まった	講義の内容だけでは，関連づけて捉えるものがなく理解しづらかった	講義だけでは何が何故大切なのか理解しづらかった　A
		講義の内容を理解するために何かと関連づけたかったが，何と関連づけて良いのか最初はわからなかった　A
	学内教員と外部講師の講義の両方を聴くことで知識と現場の様子が繋がり，自分の本当の知識として定着した	外部の講師の授業では，実際の保健師の活動や保健師以外の災害や国際活動について，現場の実際やそこで活躍する方々の考えを知ることができ，現場のイメージをつけやすかった　E
		概論などで基本的で一般的な知識を聞くだけでは，実際にどうやっているのかがわからなかった部分があったが，現場で実践している外部講師の話を聞くことで習った知識と結びついて，自分の中でどんどん知識が積み重なっていった　F
	現場の様子を実際に見ることで，授業で得た知識が自分の中で納得した理解となった	入学当初はイメージできていなかった保健師の活動とその視点が，授業で定義や概念を知り，現場で働く保健師の語りを聞き，その両者がつながることで，自分の本当の知識として定着したと実感した　G
		実習で現場を見ることで，授業で得た知識が『こういうことか』と理解できた　A
		理解して自分の知識にするためには，講義だけでなく，DVDや実習で実際の様子を見ることが重要な機会となった　A
	講義だけでは「保健師とは何をする人なのか」が自分のものとして捉えにくかったが，その後の学内活動や実習の様々な場面で能動的に動くことで，自分の言葉で理解できるようになってきた	講義だけでは，保健師は何をする人なのかうまく説明できなかったが，学内のグループディスカッション，臨地実習で保健師・住民・連携する他職種の人達と話すことにより，それぞれが捉えている保健師像が見えてきて，それを教科書等で再確認することで，自分自身の中で保健師とは何かが明確になってきた　B
		授業で話を聞くだけでは，理解しきれないことも多いが，学生間で共有して『これってどういうことだろう』と考えたり，わからないことを先生や実習先の保健師，いろいろな職種の方に尋ねたり，実際の現場を見たりして，自分から動くことで保健師の仕事というものがわかってきた　D
グループディスカッションやレポート作成により，視野が広がり，知識の定着につながった	グループディスカッションを重ねる中で，自分の偏った理解に気づき，視野の広い理解につながった	事例をもとにした訪問計画立案は，まず自分で考え学生間でグループディスカッションすることで，自分にない他者の考えに驚き，自分の思考の偏りに気づく機会となり，新しい視点での知識の吸収に大いに役立った　F
		自分だけでは偏った理解になりがちなところを学生間で意見交換することで，広い視野が持て自分の思考の偏りにも気づけた　A
	数多く出されるレポート課題に取り組むことにより，授業内容を振り返り，自身の学びの整理となり，知識定着に役立った	レポートが多いので，授業だけでは定着しにくい知識もレジメを再確認しながら自分の学びを振り返ることができ，知識を身につけるために役立った　C
講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった	前期の早い時期に保健指導のために強化すべき知識を講義・演習を通して整理したことは，実践に必要な知識強化に役立った	前期の早い時期の授業でメタボリックシンドロームのメカニズムについて自学をもとに資料を作り学内で発表を行い知識の整理と強化をしたことで後期の実習で行く家庭訪問の病態理解にとても役だった　E
	国試の勉強をする中で，講義や実習の内容が自分の知識として定着していることを実感できる	カリキュラムが全て終了して国試勉強を集中的にするようになって，授業で教員が言っていたことや実習経験が，問題と結びついて理解できるようになり，自分に知識がついていることを実感している　C
得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい	得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい	生活習慣病の指導で必要となる疾患の機序は，勉強して知識を深めることができたが難しい部分もあり，これからも勉強してもっと知識を深めていかなくてはいけないなと思っている　B

２）実践に適用できる公衆衛生看護の技術を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表４）

学生の語りから，44個のコードが抽出された．さらに分析した結果，15個のサブカテゴリー，6個のカテゴリーが抽出された．抽出したコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表４に示す．

抽出されたカテゴリーは，【学内と実習の学びの過程の中で，保健指導の基礎的な技術を獲得できた】，【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】，【前期・後期を通しての積み重ねにより地域診断における情報収集技術が獲得できた】，【地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション技術を高めることができた】，【保健師の技術は自己評価が難しいと感じた】，【保健師に総体的に必要な技術と今後その力を向上するための自己課題を認識できた】であり，【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】について一番多く語られていた．

(1)【学内と実習の学びの過程の中で，保健指導の基礎的な技術を獲得できた】

学生たちは家庭訪問の技術獲得について，「家庭訪問の手技について，授業で方法を習い，学生間の練習，教員による個々の実技の確認，その結果の学生間の情報交換により自分の不足分をしっかり確認し補強した後で，実習で実際の家庭訪問に行けたのはとても良かった」，「計測技術等は授業だけでは不十分なところを演習で先生達に評価してもらうことで自分の不足している部分に気づけた」，「家庭訪問での話し方については，保健指導論等の授業中で学生同士，保健師と対象者という設定で，メカニズムを伝える演習を通して，かなりイメージできていたと思う」，「家庭訪問は，学内の練習通りには行かない場面もあったが，おさえてあった基本的なところをかなり活かすことはできた」，「授業と実習との連動により，家庭訪問の技術は学べた」と，〈家庭訪問は，学内での授業・実技演習による自己課題の明確化，学生間の学び合いによる課題克服，実習での実践といった過程の中で，基礎的な手技を身につけることができた〉様子を語っていた．

健康教育の技術獲得については，「健康教育については前期の学内演習の中で，資料の作り方・話し方や流れのつくりがイメージできて，ある程度の基盤が作れた」，「健康教育は，実際に市町村に行き，指導者さんにも見て頂く中で，対象者に合わせた話し方などの指導をして頂けたので学内演習の経験と合わせて実践できた」，「授業と実習との連動により，健康教育の技術は学べた」と，〈健康教育は，前期の学内演習，後期実習での実践を通して，資料作成・話し方などの基礎的な手技を獲得できた〉様子を語っていた．

さらに，「保健指導論と健康生活論で，メタボリックシンドロームについて各自で資料を作りメカニズムについて発表し合う中で，他の学生の話し方・説明の仕方や資料の作り方を見聞きすることで，説明や指導の仕方がとてもイメージでき，実習の実践に結びついた」，「前期の授業で行ったことが基盤となり，後期の市町村実習ではその地域や対象者の特徴を理解した上での家庭訪問と健康教育ができ，知識を応用した実践になったと実感している」と述べ，〈前期の講義で身につけた知識を基盤として，後期の市町村実習では，地域や対象者の特徴を踏まえた保健指導ができた〉と，自分が技術の獲得をしてきていることを実感していた．

(2)【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】

学生は，〈看護過程を展開する上での保健師の技術が明確になった〉中で，「実習で，手元にあるデータだけを見て指導しようとし

ていたが，訪問して本人の話を聞く中で今の数字がある背景には今までの本人の思いや努力をしてきた行動があることを知り，保健師の知識だけで判断するのではなく，まずは本人の思いや今までの行動を理解することが大切であることを学んだ」，「家庭訪問に行って実際の様子を見ないとわからない事があり，事前にアセスメントしたことと，実際を見てアセスメントしたことを交えてアセスメントする視点が大事であることを学んだ」，「家庭訪問はまず計画をたてるための現状把握という準備が大切で，それと同時に今後の予測をするという視点が大事であることを学んだ」と，〈家庭訪問における対象把握・アセスメント・援助の優先順位決定のプロセスにおける保健師の視点とその大切さを学んだ〉と効果的な保健指導を行うために必要な過程を学んだ様子を語っていた．

さらに，その過程の中で発揮する技術について，「検査データとその人の生活習慣とを結びつけることがいかに大切で，その為に住民がイメージしやすくわかりやすいようにするにはどうしたらよいのかを実際の事例を通して外部講師の現場の保健師から丁寧に教えていただいたことは凄い学びであった」，「保健指導に必要な生活習慣病のメカニズムについて，先生の授業だけでは理解できない部分を，同じ実習施設の学生同士で話し合いアウトプットし合いながら，自分の分かっていないところを再確認する作業をして学びを深める中で，わかりやすく人に伝えるには，いかに自分の中でそれが消化できているかがとても大切であるかがわかった」，「住民が自ら動ける行動変容に至るための保健指導は，方法の伝授ではなく，自身の体の中で今何が起きているかという発生機序の理解ができることが必要であるということがわかった」と〈行動変容に至るための保健指導は単なる方法の伝授ではなく，住民自身が自分の体の中で今何が起きているかという発生機序を具体的にイメージして理解できるように伝えることが大切であることがわかった〉と語っていた．

このように，保健指導技術を展開するうえでの大切なポイントを確認する中で，「住民が自分の体の中で起きている変化に気づき，それを改善するために自ら動ける保健指導をするためには，保健師自身が生活習慣病の発生機序を十分理解して自分の中に落とし込むことが必要で，それを相手にわかりやすく説明するのはものすごく難しいと感じた」，「限られた時間の家庭訪問で，情報収集・アセスメント・指導を展開するには優先順位を考えるのがとても難しく，効果的に行うためには，展開技術だけではなく専門職としての知識が大切であると実習で学んだ」，「実習の乳幼児健診で行った健康教育では，自分の子どもの動きが気になっているお母さん達が対象で反応が少なかった経験から，その場に応じて大切なことを臨機応変に伝えていくことも保健師の技術として必要であると感じた」と〈住民に効果的な保健指導をするためには保健師自身に十分な知識が必要であり，その知識を相手にわかりやすく伝えることは非常に難しい技術であると感じた〉と，技術獲得に必要な知識の多さとその知識を他者に伝えることの難しさを認識していた．

さらに，「実習で栄養士の行う指導の場面で，住民が体や食品の事にどんどん関心を持っていく過程を目の当たりにして，専門職としての知識をもとにした対象者の興味を引き出していく技術がとても学びになった」，「実習で対象者に合った食事指導を考える際に，自力の勉強では難しく栄養士に教えていただく中で，対象者それぞれに合った保健指導を考える際は必要に応じて他職種から学ぶことも大切だと気づいた」と，〈保健指導の技術を高めるためには，他職種からの学びも必要であると気づいた〉様子を語っていた．

(3)【前期・後期を通しての積み重ねにより地域診断における情報収集技術が獲得でき

た】

前期・後期を通して実習に赴く市町村実習での地域診断における技術獲得について学生たちは，「地区踏査で地域から情報を得るということは当初難しかったが，前期・後期の実習の中で，学生間で自己の振り返りをしたり指導者のアドバイスを元にして経験を重ねたことで，積極的に情報収集のできる術を取得できたと実感している」，「地区踏査は，前期実習で行った際には本当に地区を捉えられているのか手応えがなかったが，それで終わるのではなく，夏休み，後期実習と自分が感じたことを少しずつ記録に書き足していくことで，視点や方法が技術として積み重なったと感じる」と〈地区踏査は，前期実習当初は効果的に行えているか実感が得にくかったが，後期実習まで継続して積み重ねることで情報収集技術が獲得できた〉様子を語っていた．さらに，「看護師教育課程で身につけてきた病室にいる対象者をいかに深くアセスメントするかという視点に加え，地域全体という広い視野で見て点在する多様な情報の中から必要な情報をセレクトしてアセスメントするという地域診断の力がついてきていることを，実家に帰った時に地元を見る自分の視点が変わっていることで実感している」のように〈1人の対象者を深く分析する視点に加え，地域全体を分析するという視点を持てるようになってきた〉と自分の視野の広がりを実感した場面を振り返っていた．

(4)【地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション技術を高めることができた】

「保健師に必要となる礼儀・態度・話し方・気配りといった対人的な作法の基本を，グループディスカッションや家庭訪問など全ての経験の中で意識することが大切であると思えたため，それらを身につけられたと感じている」，「前期と後期の長期間の実習があることで，住民と関われる機会がたくさんあり，何度も会って顔を覚えることの大切さやどうすれば住民から話を聞くことができるのかを体験を通して学べ，自分に足りないコミュニケーション能力という技術を上げられたと思う」と，学内及び実習施設の様々な場面で，学生間や住民の方々から学び，〈地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション能力を習得できた〉と，自らを振り返っていた．

(5)【保健師の技術は自己評価が難しいと感じた】

一方，自身の技術評価について，「看護師の教育課程では，学内演習や病院実習で常に教員や指導者がいて，その都度アドバイスをたくさんもらえていたが，家庭訪問は1人のためその場で評価してくれる人がおらず，技術が自分についたかは自己評価基準がわかりづらい」，「実習の場では評価してくれる人がいなかったので自己評価の基準が難しかった」と〈家庭訪問は，学生1人で行う実習形態のため他者評価がなく評価の難しさを感じる〉様子や，「保健指導の技術的評価は，手技的なものの評価ではなく，対象者自身が行動変容の必要性を理解して実践できるようになるかという点なので，自己評価がしづらく技術強化がしにくいと感じた」として〈保健指導の自己評価はしづらく，技術強化しにくい〉といった様子も述べられていた．

(6)【保健師に総体的に必要な技術と今後その力を向上するための自己課題を認識できた】

以上のように，自らの保健師としての技術獲得の過程を振り返る中で，「手技的なことは保健師の技術のほんの一部であり，本当に必要な技術は自分が就職した自治体においてその地域の特性を知った上で，そこに合わせた保健活動が展開できる力を学び続け，それを修得していくことであるとこの学校の実習を通して学べた」，「健康教育で大切なことを分かりやすく伝えることは難しいが，現場の

保健師はチャンスが何回もあるのだから，そのチャンスを活かしてどんどんより良いものにしていけば良いと実習で保健師さんから言ってもらい，そういう気持ちでいようと学べた」，「生活習慣病予防の指導で，個人の状態を分析しそれを本人と共有しながら行う保健指導は，実習を終えた今でも凄く難しく多分これからもずっと悩んでいくと思うが，そこと向き合うことの大切さに気づけたことが大切な学びだった」と，今後の自己課題を明確にする中で〈保健師としての技術を向上するために今後も学び続けたいという意欲が高まったことが，大切な学びだと感じている〉前向きな様子が語られていた．そして，「個別対応の展開方法は無限であり，知ることのできた技術はまだまだ少ないと感じている」，「今も技術は全然完璧ではなく，これからも学ぶことがたくさんある」，「家庭訪問では想定していない質問もあり，それに対応できる知識が自分にはまだないことを知る場面がけっこうあったので，今も技術が身についたか分からない」と〈獲得すべき技術がまだまだたくさんあると感じている〉状況を語っていた．

表４　実践に適用できる公衆衛生看護の技術を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学内と実習の学びの過程の中で，保健指導の基礎的な技術を獲得できた	家庭訪問は，学内での授業・実技演習による自己課題の明確化，学生間の学び合いによる課題克服，実習での実践といった過程の中で，基礎的な手技を身につけることができた	家庭訪問の手技について，授業で方法を習い，学生間の練習，教員による個々の実技の確認，その結果の学生間の情報交換により自分の不足分をしっかり確認し補強した後で，実習で実際の家庭訪問に行けたのはとても良かった　C
		母子の身体計測については，授業で二人一組で実際に計測する練習の後，一人一人の手技を確認する演習によりイメージできていたので実際の市町村実習でスムーズに行うことができた　E
		計測技術等は授業だけでは不十分なところを演習で先生達に評価してもらうことで自分の不足している部分に気づけた　A
		実習の家庭訪問の中で，上手くいった手技や失敗したことを学生間で共有し合い，次の自分の実施につなげたことも技術獲得に役に立った　C
		家庭訪問での話し方については，保健指導論等の授業中で学生同士，保健師と対象者という設定で，メカニズムを伝える演習を通して，かなりイメージできていたと思う　E
		相手の話を聴く際に意識すべきことが授業の中で確認できていたので，実習で家庭訪問に実際に行って話を聴く時にイメージ通りできた　E
		家庭訪問は，学内の練習通りには行かない場面もあったが，おさえてあった基本的なところをかなり活かすことはできた　E
		授業と実習との連動により，家庭訪問の技術は学べた　H
	健康教育は，前期の学内演習，後期実習での実践を通して，資料作成・話し方などの基礎的な手技を獲得できた	健康教育については前期の学内演習の中で，資料の作り方・話し方や流れのつくりがイメージできて，ある程度の基盤が作れた　E
		健康教育は，実際に市町村に行き，指導者さんにも見て頂く中で，対象者に合わせた話し方などの指導をして頂けたので学内演習の経験と合わせて実践できた　E
		授業と実習との連動により，健康教育の技術は学べた　H
	前期の講義で身につけた知識を基盤として，後期の市町村実習では，地域や対象者の特徴を踏まえた保健指導ができた	保健指導論と健康生活論で，メタボリックシンドロームについて各自で資料を作りメカニズムについて発表し合う中で，他の学生の話し方・説明の仕方や資料の作り方を見聞きすることで，説明や指導の仕方がとてもイメージでき，実習の実践に結びついた　E
		前期の授業で行ったことが基盤となり，後期の市町村実習ではその地域や対象者の特徴を理解した上での家庭訪問と健康教育ができ，知識を応用した実践になったと実感している　E

効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した	看護過程を展開する上での保健師の技術が明確になった	限られた時間の中で，対象者に必要な情報の収集・アセスメント・関わりを実践する過程の全てが保健師の技術であることを学んだ F
	家庭訪問における対象把握・アセスメント・援助の優先順位決定のプロセスにおける保健師の視点とその大切さを学んだ	実習で，手元にあるデータだけを見て指導しようとしていたが，訪問して本人の話を聞く中で今の数字がある背景には今までの本人の思いや努力をしてきた行動があることを知り，保健師の知識だけで判断するのではなく，まずは本人の思いや今までの行動を理解することが大切であることを学んだ D
		家庭訪問に行って実際の様子を見ないとわからない事があり，事前にアセスメントしたことと，実際を見てアセスメントしたことを交えてアセスメントする視点が大事であることを学んだ H
		家庭訪問はまず計画をたてるための現状把握という準備が大切で，それと同時に今後の予測をするという視点が大事であることを学んだ H
	行動変容に至るための保健指導は単なる方法の伝授ではなく，住民自身が自分の体の中で今何が起きているかという発生機序を具体的にイメージして理解できるように伝えることが大切であることがわかった	体育の授業で，「5年生でも分かるよう保健指導をやって」と言われ，難しい言葉を並べずに相手が分かるように話すには，自分の理解がしっかりしていないとできないことに気づいた B
		保健師が住民に行う保健指導は，学校で習ったことをそのまま住民に伝えることではないということが分かった B
		検査データとその人の生活習慣とを結びつけることがいかに大切で，その為に住民がイメージしやすくわかりやすいようにするにはどうしたらよいのかを実際の事例を通して外部講師の現場の保健師から丁寧に教えていただいたことは凄い学びであった A
		保健指導に必要な生活習慣病のメカニズムについて，先生の授業だけでは理解できない部分を，同じ実習施設の学生同士で話し合いアウトプットし合いながら，自分の分かっていないところを再確認する作業をして学びを深める中で，わかりやすく人に伝えるには，いかに自分の中でそれが消化できているかがとても大切であるかがわかった A
		住民が自ら動ける行動変容に至るための保健指導は，方法の伝授ではなく，自身の体の中で今何が起きているかという発生機序の理解ができることが必要であるということがわかった C
	住民に効果的な保健指導をするためには保健師自身に十分な知識が必要であり，その知識を相手にわかりやすく伝えることは非常に難しい技術であると感じた	住民が自分の体の中で起きている変化に気づき，それを改善するために自ら動ける保健指導をするためには，保健師自身が生活習慣病の発生機序を十分理解して自分の中に落とし込むことが必要で，それを相手にわかりやすく説明するのはものすごく難しいと感じた C
		健康教育では，大切で伝えなくてはいけないことをいかにわかりやすく理解してもらうか，その技術が難しいと感じた H
		実習の乳幼児健診で行った健康教育では，自分の子どもの動きが気になっているお母さん達が対象で反応が少なかった経験から，その場に応じて大切なことを臨機応変に伝えていくことも保健師の技術として必要であると感じた H
		限られた時間の家庭訪問で，情報収集・アセスメント・指導を展開するには優先順位を考えるのがとても難しく，効果的に行うためには，展開技術だけではなく専門職としての知識が大切であると実習で学んだ F
	保健指導の技術を高めるためには，他職種からの学びも必要であると気づいた	実習で栄養士の行う指導の場面で，住民が体や食品の事にどんどん関心を持っていく過程を目の当たりにして，専門職としての知識をもとにした対象者の興味を引き出していく技術がとても学びになった A
		実習で対象者に合った食事指導を考える際に，自力の勉強では難しく栄養士に教えていただく中で，対象者それぞれに合った保健指導を考える際は必要に応じて他職種から学ぶことも大切だと気づいた D

前期・後期を通しての積み重ねにより地域診断における情報収集技術が獲得できた	地区踏査は，前期実習当初は効果的に行えているか実感が得にくかったが，後期実習まで継続して積み重ねることで情報収集技術が獲得できた	地区踏査で地域から情報を得るということは当初難しかったが，前期・後期の実習の中で，学生間で自己の振り返りをしたり指導者のアドバイスを元にして経験を重ねたことで，積極的に情報収集のできる術を取得できたと実感している　B
		地区踏査は，前期実習で行った際には本当に地区を捉えられているのか手応えがなかったが，それで終わるのではなく，夏休み，後期実習と自分が感じたことを少しずつ記録に書き足していくことで，視点や方法が技術として積み重なったと感じる　G
	1人の対象者を深く分析する視点に加え，地域全体を分析するという視点を持てるようになってきた	看護師教育課程で身につけてきた病室にいる対象者をいかに深くアセスメントするかという視点に加え，地域全体という広い視野で見て点在する多様な情報の中から必要な情報をセレクトしてアセスメントするという地域診断の力がついてきていることを，実家に帰った時に地元を見る自分の視点が変わっていることで実感している　B
地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション技術を高めることができた	地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション能力を習得できた	保健師に必要となる礼儀・態度・話し方・気配りといった対人的な作法の基本を，グループディスカッションや家庭訪問など全ての経験の中で意識することが大切であると思えたため，それらを身につけられたと感じている　G
		保健師になるための課題としてコミュニケーション能力があり，人とのかかわりが保健師には特に大事だと学ぶ中で，自分に足りないところをとても感じた　I
		前期と後期の長期間の実習があることで，住民と関われる機会がたくさんあり，何度も会って顔を覚えることの大切さやどうすれば住民から話を聞くことができるのかを体験を通して学べ，自分に足りないコミュニケーション能力という技術を上げられたと思う　I
保健師の技術は自己評価が難しいと感じた	家庭訪問は，学生1人で行う実習形態のため他者評価がなく評価の難しさを感じる	看護師の教育課程では，学内演習や病院実習で常に教員や指導者がいて，その都度アドバイスをたくさんもらえていたが，家庭訪問は1人のためその場で評価してくれる人がおらず，技術が自分についたかは自己評価基準がわかりづらい　D
		実習の場では評価してくれる人がいなかったので自己評価の基準が難しかった　A
	保健指導の自己評価はしづらく，技術強化しにくい	保健指導の技術的評価は，手技的なものの評価ではなく，対象者自身が行動変容の必要性を理解して実践できるようになるかという点なので，自己評価がしづらく技術強化がしにくいと感じた　D
保健師に総体的に必要な技術と今後その力を向上するための自己課題を認識できた	保健師としての技術を向上するために今後も学び続けたいという意欲が高まったことが，大切な学びだと感じている	保健師には柔軟性のあるアセスメント能力が必要であり，そこを鍛えていきたいと思った　H
		手技的なことは保健師の技術のほんの一部であり，本当に必要な技術は自分が就職した自治体においてその地域の特性を知った上で，そこに合わせた保健活動が展開できる力を学び続け，それを取得していくことであるとこの学校の実習を通して学べた　A
		健康教育で大切なことを分かりやすく伝えることは難しいが，現場の保健師はチャンスが何回もあるのだから，そのチャンスを活かしてどんどんより良いものにしていけば良いと実習で保健師さんから言ってもらい，そういう気持ちでいようと学べた　H
		生活習慣病予防の指導で，個人の状態を分析しそれを本人と共有しながら行う保健指導は，実習を終えた今でも凄く難しく多分これからもずっと悩んでいくと思うが，そこと向き合うことの大切さに気づけたことが大切な学びだった　C
	獲得すべき技術がまだまだたくさんあると感じている	個別対応の展開方法は無限であり，知ることのできた技術はまだまだ少ないと感じている　A
		今も技術は全然完璧ではなく，これからも学ぶことがたくさんある　C
		家庭訪問では想定していない質問もあり，それに対応できる知識が自分にはまだないことを知る場面がけっこうあったので，今も技術が身についたか分からない　D

３）予防的視点を持って公衆衛生看護に取り組むことのできる力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表５）

学生の語りから，21個のコードが抽出された．さらに分析した結果，9個のサブカテゴリー，5個のカテゴリーが抽出された．抽出したコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表５に示す．

抽出されたカテゴリーは，【予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた】，【保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ】，【住民の姿から予防的アプローチの大切さが学べた】，【自分自身の思考を治療的視点から予防的視点に変換するのに苦労した】，【予防的視点を持って生活することは，生活者である自分自身にも必要であることに気づいた】であり，【保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ】について一番多く語られていた．

(1)【予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた】

「外部講師の保健師が持ってきてくれた健診データの事例で，その経過とその人の生活背景を見ながら分析を行った授業が，予防的視点を学ぶ上で一番印象に残っている」，「家庭訪問のアセスメントでは，対象者の現状を踏まえ，これからこうなるかもしれないということを考えた上で，今後の支援方針を考える練習ができた」，「対象者の生活背景や価値観を詳しく聞いてその人を捉えていくことが，対象者自身が主体性を持って予防していくためには大事であることを家庭訪問で学んだ」のように〈対象者個々の健康状態について，過去・現在・今後について予防的視点をもって分析する事の必要性とその方法が学べた〉と，保健師にとって重要な予防的視点で対象に向き合う方法を授業や実習で学んだ様子が語られていた．また，予防的視点で住民と関わった具体的場面から，「感染対策のための手洗いについて健康教育でただ方法を伝えるのではなく，機械も用いて手の汚れを確認した上で手洗いの実践をし，資料配布を行ったところ，その後も参加者が自宅でそれを活用している様子を聞いて，予防行動の実践につなげられたと感じ，自信につながった」といった〈健康教育での実践が住民の行動を変えたことから，予防行動の実践につなげられた手ごたえを感じた〉様子も語られていた．

(2)【保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ】

「乳幼児健診では，スクリーニング的な視点で異常の有無を確認するだけではなく，それぞれの児の発達の段階を判断して個々に合った指導をする保健師の姿を見たことは，予防的視点を養う上で役に立った」と〈保健師の実践から，スクリーニング的な視点と予防的視点の関わりの違いを感じ取った場面があり予防的視点を養う上で役立った〉点が述べられていた．

さらに，「実習で住民から相談の電話があった際に，何か起きる前にすぐに訪問に行くように心がけている保健師の姿から，そういった姿勢も予防の視点で大切だと感じた」，「実習で，保健師が必要な時には他職種とすぐに話し合える連携体制を作っているのを見て，何か起きる前からの体制づくりも予防的視点には必要であることを学んだ」，「疾患がない人には特定健診やがん検診を勧め，糖尿病などの疾患を持っている人には今後の成り行きについて一緒に考えるなど，住民それぞれに合わせた予防的な視点のアプローチがあることを市町村実習で学んだ」，「乳幼児健診の時に大勢いる母親達の中から，メイクや服装が普段と違う母親の様子を保健師がキャッチして対応した際，その母親が『実は･･･』と涙を流す姿が印象的で保健師ってすごいなと驚いた」と，実習において〈保健師が行っている業務の様々な場面で，予防的な関わりや体制をとっていることが見てとれた〉様子が語られていた．

また，「実習で保健師と一緒に行動している際，住民と直接会って話す一つ一つの場面で，保健師は住民に予防的視点で関わっており，それはとても大切なことだと感じた」，「窓口相談などでただ会って話をするだけでも，雰囲気や表情で住民の健康状態を把握する視点を保健師が持っていることを実習で学び，自分もこれから大切にしていきたいと思った」，「実習中に，保健師は保健事業ではなくて違う目的で世間話をしながらも，住民の課題や人生の中で悩んでいることをキャッチし，聞き取っていて，日々の会話は大切で，自分の中の一つの予防的視点にしていこうと思った」のように〈実習で見た様々な場面において，保健師は常に予防的視点をもって住民に関わっており，自分の大切な視点にしたいと感じた〉と予防的視点について，今後自分が大切にしていきたいことを具体的に述べていた．

(3)【住民の姿から予防的アプローチの大切さが学べた】

「保健事業に参加して，80代で元気に動ける人もいれば，60代でも思うように動けない人もいることに驚き，日々の積み重ねの大切さを感じた」，「介護予防教室で，60代前半の方から，以前の生活行動を反省しこれ以上悪くならないように，今，頑張っているという声を聴き，保健師が将来を見据えてアプローチしていくことの大切さであると感じた」と，〈住民の姿から，日々の生活が将来につながることを実感し，保健師の予防的アプローチの重要性を感じた〉様子が語られていた．

(4)【自分自身の思考を治療的視点から予防的視点に変換するのに苦労した】

保健師として予防的視点を持って保健活動を行うことの重要性を確認すると同時に，「看護師をしている時に，病気が悪化してからそのことの重大さに気づく患者の姿を見て，予防に関わりたいと保健師を志したが，どうしても今までの治療的視点に縛られて，治して良くするために私が対象者に何かをするということばかり考えてしまう傾向があることに実習で気づいた」，「家庭訪問計画立案では，今の異常な部分だけ着目してそこに関して立案する思考の癖があり，予防的視点でアセスメントすることに苦労した」と〈治療的視点に着目してしまいがちな自分の思考を予防的視点に変えるのに苦労した〉語りとともに，「病気など異常が分かってからのアプローチはしやすいが，健康な人に予防的な視点でかかわるのはとても難しいと感じている」といった〈健康な人に予防的に関わることの難しさを感じている〉ことも語られていた．

(5)【予防的視点を持って生活することは，生活者である自分自身にも必要であることに気づいた】

保健師として活動する上で専門職者として予防的視点を持つことの大切さを確認する一方で，「健康生活論や保健指導論の授業で，生活習慣病のメカニズムを学び，今こういう生活をしているとゆくゆくはこうなるかもしれないというアセスメントの流れを知ることで，自分や家族の生活にも目を向けて，食事のタイミングや内容など具体的に自分の課題が見つけられ，生活を改めるなど自分自身の生活でも予防的視点を持って生活するようになった」，「授業の中で様々な知識を得たことで，自分自身の日常生活にも予防的な視点で考えると改善すべき場面がたくさんあり授業で知識を得ることの大切さを感じた」と〈予防的視点を持って生活することは，生活者である自分自身にも必要であることに気づいた〉ことについても語られた．

表５　予防的視点を持って公衆衛生看護に取り組むことのできる力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた	対象者個々の健康状態について，過去・現在・今後について予防的視点をもって分析する事の必要性とその方法が学べた	外部講師の保健師が持ってきてくれた健診データの事例で，その経過とその人の生活背景を見ながら分析を行った授業が，予防的視点を学ぶ上で一番印象に残っている　C
		家庭訪問のアセスメントは，今後のリスクや可能性もアセスメントをする必要があり，生活状況，家族状況，その人の希望，強みといったその人の生き方を捉えることが予防的視点には大切であると感じた　C
		家庭訪問のアセスメントでは，対象者の現状を踏まえ，これからこうなるかもしれないということを考えた上で，今後の支援方針を考える練習ができた　E
		対象者の生活背景や価値観を詳しく聞いてその人を捉えていくことが，対象者自身が主体性を持って予防していくためには大事であることを家庭訪問で学んだ　H
	健康教育での実践が住民の行動を変えたことから，予防行動の実践につなげられた手ごたえを感じた	感染対策のための手洗いについて健康教育でただ方法を伝えるのではなく，機械も用いて手の汚れを確認した上で手洗いの実践をし，資料配布を行ったところ，その後も参加者が自宅でそれを活用している様子を聞いて，予防行動の実践につなげられたと感じ，自信につながった　D
保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ	保健師の実践から，スクリーニング的な視点と予防的視点の関わりの違いを感じ取った場面があり予防的視点を養う上で役立った	乳幼児健診では，スクリーニング的な視点で異常の有無を確認するだけではなく，それぞれの児の発達の段階を判断して個々に合った指導をする保健師の姿を見たことは，予防的視点を養う上で役に立った　A
	保健師が行っている業務の様々な場面で，予防的な関わりや体制をとっていることが見てとれた	実習で住民から相談の電話があった際に，何か起きる前にすぐに訪問に行くように心がけている保健師の姿から，そういった姿勢も予防の視点で大切だと感じた　E
		実習で，保健師が必要な時には他職種とすぐに話し合える連携体制を作っているのを見て，何か起きる前からの体制づくりも予防的視点には必要であることを学んだ　E
		疾患がない人には特定健診やがん検診を勧め，糖尿病などの疾患を持っている人には今後の成り行きについて一緒に考えるなど，住民それぞれに合わせた予防的な視点のアプローチがあることを市町村実習で学んだ　I
		乳幼児健診の時に大勢いる母親達の中から，メイクや服装が普段と違う母親の様子を保健師がキャッチして対応した際，その母親が『実は･･･』と涙を流す姿が印象的で保健師ってすごいなと驚いた　C
	実習で見た様々な場面において，保健師は常に予防的視点をもって住民に関わっており，自分の大切な視点にしたいと感じた	実習で保健師と一緒に行動している際，住民と直接会って話す一つ一つの場面で，保健師は住民に予防的視点で関わっており，それはとても大切なことだと感じた　C
		窓口相談などでただ会って話をするだけでも，雰囲気や表情で住民の健康状態を把握する視点を保健師が持っていることを実習で学び，自分もこれから大切にしていきたいと思った　C
		実習中に，保健師は保健事業ではなくて違う目的で世間話をしながらも，住民の課題や人生の中で悩んでいることをキャッチし，聞き取っていて，日々の会話は大切で，自分の中の一つの予防的視点にしていこうと思った　F

住民の姿から予防的アプローチの大切さが学べた	住民の姿から，日々の生活が将来につながることを実感し，保健師の予防的アプローチの重要性を感じた	保健事業に参加して，80代で元気に動ける人もいれば，60代でも思うように動けない人もいることに驚き，日々の積み重ねの大切さを感じた　E
		介護予防教室で，60代前半の方から，以前の生活行動を反省しこれ以上悪くならないように，今，頑張っているという声を聴き，保健師が将来を見据えてアプローチしていくことの大切さであると感じた　B
自分自身の思考を治療的視点から予防的視点に変換するのに苦労した	治療的視点に着目してしまいがちな自分の思考を予防的視点に変えるのに苦労した	看護師をしている時に，病気が悪化してからそのことの重大さに気づく患者の姿を見て，予防に関わりたいと保健師を志したが，どうしても今までの治療的視点に縛られて，治して良くするために私が対象者に何かをするということばかり考えてしまう傾向があることに実習で気づいた　H
		家庭訪問計画立案では，今の異常な部分だけ着目してそこに関して立案する思考の癖があり，予防的視点でアセスメントすることに苦労した　A
	健康な人に予防的に関わることの難しさを感じている	病気など異常が分かってからのアプローチはしやすいが，健康な人に予防的な視点でかかわるのはとても難しいと感じている　C
予防的視点を持って生活することは，生活者である自分自身にも必要であることに気づいた	授業や実習で学んだ予防的視点で，自らの生活にも目を向考え，改善するようになった	健康生活論や保健指導論の授業で，生活習慣病のメカニズムを学び，今こういう生活をしているとゆくゆくはこうなるかもしれないというアセスメントの流れを知ることで，自分や家族の生活にも目を向けて，食事のタイミングや内容など具体的に自分の課題が見つけられ，生活を改めるなど自分自身の生活でも予防的視点を持って生活するようになった　E
		実習の健康教育をするために勉強する中で，手洗いやうがいの重要性を知り，自分や家族の健康や生活について予防的視点で考えるようになった　E
		授業の中で様々な知識を得たことで，自分自身の日常生活にも予防的な視点で考えると改善すべき場面がたくさんあり授業で知識を得ることの大切さを感じた　F

4）個別課題と地域課題をつなげて考えられる視点を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表6）

学生の語りから，16個のコードが抽出された．さらに分析した結果，7個のサブカテゴリー，4個のカテゴリーが抽出された．抽出したコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表6に示す．

抽出されたカテゴリーは，【地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた】，【地区の歴史による価値観・健康課題の違いを学ぶと同時にそこにアプローチすることの難しさを知った】，【実習の中で個別課題と地域課題を繋げて捉えるための自己課題を認識した】，【授業で外部講師が提示してくれた実際の事例を通して個別課題と地域課題をつなげ，事業化することを学んだ】であり，【地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた】について一番多く語られていた．

(1)【地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた】

「実習中にその地域に多い職業について，実際にその場に出向き仕事の内容を見学させていただけたので，それがどういう健康課題につながるかを知ることができた」，「住民は果物が多くてお茶の時間に良く出る地域の習慣と健康課題の関係を住民もよく分かっていて，その話を聞くことで，統計資料と関連づけて個別課題と地域課題をつなげることができたと思う」，「実習に行った○○町では，糖尿病や透析をしている人がとても多く，自家製の梅やらっきょう，味噌汁などをいただく

と味がとても濃くて，こういうことが関連しているんだと実感した」，「住民からの話をたくさん聞く機会をつくることが，個別課題と地域課題とのつながりを知る最初のきっかけになった」と〈住民から様々な話を聞く中で，個々の生活実態が，統計データの結果など地区の課題とつながることに気づいた〉と実習で出会う住民の方々から学ばせていただいた様子が語られていた．さらに，「足腰が悪く思うように買い物に行けず配食サービスを利用している方の家に訪問した際にその家の周辺が急な坂にあることを知り，後日地区踏査でその坂を実際に歩いてみて，そのきつさを体感することで配食サービスという自治体全体のサービスが1人の生活を支えることを実感した」，「地域診断で住民さんから聞いた移動手段のない個人が感じている不便さと，村が実施し始めた巡回バスという対策が自分の中で合致した時，個人の問題であっても将来的に住民全体の問題になると捉えて，先を見通して対策を考えている実際を学んだ」と〈見聞きした住民の実態が行政のサービスの根拠となっている実際を学んだ〉と住民個々の様子と行政サービスとを連動させて考えた様子も述べられていた．

(2)【地区の歴史による価値観・健康課題の違いを学ぶと同時にそこにアプローチすることの難しさを知った】

「実習に行った自治体は複数の自治体が合併しており，地区ごとに考え方も異なり，もともとの文化により考え方も異なることを理解することが大切であると学んだ」，「糖尿病の家系の住民から話を聞いた時，その地区は地元のお店のおまんじゅうを皆とても食べており，どこの家のこたつの上にもいつも置いてありおやつに2～3個食べている話を聞き地域課題と繋がり，直接話を聞くことは大事だなと思った」と，〈実習で地区に出向き，住民から直接話を聞くことで，その地区の歴史や文化が考え方や生活をつくることを知った〉様子を語っていた．しかし，「地区の自慢のおまんじゅうをみんなが食べている文化に保健師は何ができるんだろうと考えたが，自分でははっきりした答えは出せなかった」と〈地区の文化が住民の健康に与える影響に保健師はどう関わればよいのかはまだわからない〉と，地区の文化や価値観を尊重しつつ健康課題にアプローチすることの難しさに関する語りも聞かれた．

(3)【実習の中で，個別課題と地域課題を繋げて捉えるための自己課題を認識した】

「自分が聞いた話と保健師さんの話してくれた事例をつなぎ合わせて，『あっ，だから今町ではこういうことが行われているんだ』と理解して，個別課題が地域課題に広げられていることを確認した」，「自分の出身地である実習先で，保健師さんがその地域の健康課題と結びつく特徴の一つとして果樹園が多いことを挙げており，そこで生まれ育った私の中では当たり前のことが健康課題とつながることに驚き，その後家庭訪問などを行う中でそのことを再確認した」，「今行っている事業は，過去にどんな課題や背景があって，今につながっているかを保健師さんから教えてもらうことでその成り立ちを知った」と〈自力で個別課題と地域課題を繋げて捉えるのは難しかったが，実習中に保健師さんからの助言でつなげられた〉様子が語られていた．そしてそれらの中で，「個別課題と地区課題をつなげて考えられるようになったかと言われると不十分な部分もあるが，とても大事な視点であることは実習の中で感じたのでこれからの自己課題であると思う」と〈個別課題と地域課題を繋げて捉える力はまだついていないが，その大切さは実習で感じた〉と今後保健師として成長していくための自己課題に気づけた様子を語っていた．

(4)【講義で外部講師が提示してくれた実際の事例を通して個別課題と地域課題をつなげ，事業化することを学んだ】

「外部講師から聞く事例から，個別課題と地域課題をつなげて事業化していく過程をたくさん学べた」と，〈外部講師の講義で，個別課題と地域課題をつなげて事業化していく過程が学べた〉様子を語っていた．

表６　個別課題と地域課題をつなげて考えられる視点を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた	住民から様々な話を聞く中で，個々の生活実態が，統計データの結果など地区の課題とつながることに気づいた	個別課題から地域の課題を見いだす実際をとても学んだと思うのは実習である　D
		実習中にその地域に多い職業について，実際にその場に出向き仕事の内容を見学させていただけたので，それがどういう健康課題につながるかを知ることができた　A
		住民は果物が多くてお茶の時間に良く出る地域の習慣と健康課題の関係を住民もよく分かっていて，その話を聞くことで，統計資料と関連づけて個別課題と地域課題をつなげることができたと思う　C
		実習に行った○○町では，糖尿病や透析をしている人がとても多く，自家製の梅やらっきょう，味噌汁などをいただくと味がとても濃くて，こういうことが関連しているんだと実感した　B
		住民からの話をたくさん聞く機会をつくることが，個別課題と地域課題とのつながりを知る最初のきっかけになった　A
	見聞きした住民の実態が行政のサービスの根拠となっている実際を学んだ	足腰が悪く思うように買い物に行けず配食サービスを利用している方の家に訪問した際にその家の周辺が急な坂にあることを知り，後日地区踏査でその坂を実際に歩いてみて，そのきつさを体感することで配食サービスという自治体全体のサービスが1人の生活を支えることを実感した　D
		地域診断で住民さんから聞いた移動手段のない個人が感じている不便さと，村が実施し始めた巡回バスという対策が自分の中で合致した時，個人の問題であっても将来的に住民全体の問題になると捉えて，先を見通して対策を考えている実際を学んだ　E
地区の歴史による価値観・健康課題の違いを学ぶと同時にそこにアプローチすることの難しさを知った	実習で地区に出向き，住民から直接話を聞くことで，その地区の歴史や文化が考え方や生活をつくることを知った	実習に行った自治体は複数の自治体が合併しており，地区ごとに考え方も異なり，もともとの文化により考え方も異なることを理解することが大切であると学んだ　D
		糖尿病の家系の住民から話を聞いた時，その地区は地元のお店のおまんじゅうを皆とても食べており，どこの家のこたつの上にもいつも置いてありおやつに２～３個食べている話を聞き地域課題と繋がり，直接話を聞くことは大事だなと思った　B
	地区の文化が住民の健康に与える影響に保健師はどう関わればよいのかはまだわからない	地区の自慢のおまんじゅうをみんなが食べている文化に保健師は何ができるんだろうと考えたが，自分でははっきりした答えは出せなかった　B
実習の中で，個別課題と地域課題を繋げて捉えるための自己課題を認識した	自力で個別課題と地域課題を繋げて捉えるのは難しかったが，実習中に保健師さんからの助言でつなげられた	自分が聞いた話と保健師さんの話してくれた事例をつなぎ合わせて，『あっ，だから今町ではこういうことが行われているんだ』と理解して，個別課題が地域課題に広げられていることを確認した　A
		自分の出身地である実習先で，保健師さんがその地域の健康課題と結びつく特徴の一つとして果樹園が多いことを挙げており，そこで生まれ育った私の中では当たり前のことが健康課題とつながることに驚き，その後家庭訪問などを行う中でそのことを再確認した　G
		実習中，個別から地域に視点を広げることは，自分一人では難しく，指導者にアドバイスをもらいながら視野を広げることができた　A
		今行っている事業は，過去にどんな課題や背景があって，今につながっているかを保健師さんから教えてもらうことでその成り立ちを知った　A

	個別課題と地域課題を繋げて捉える力はまだついていないが，その大切さは実習で感じた	個別課題と地区課題をつなげて考えられるようになったかと言われると不十分な部分もあるが，とても大事な視点であることは実習の中で感じたのでこれからの自己課題であると思う　C
講義で外部講師が提示してくれた実際の事例を通して個別課題と地域課題をつなげ，事業化することを学んだ	外部講師の講義で，個別課題と地域課題をつなげて事業化していく過程が学べた	外部講師から聞く事例から，個別課題と地域課題をつなげて事業化していく過程をたくさん学べた　E

5）地域住民，関連職種と連携・協働をする視点をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表7）

学生の語りから，25個のコードが抽出された．さらに分析した結果，9個のサブカテゴリー，4個のカテゴリーが抽出された．抽出したコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表7に示す．

抽出されたカテゴリーは，【実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した】，【実習の現場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ】，【前期の講義で学んだ他職種連携の重要性について後期の多様な実習の中で実感できた】，【現場の実際から他職種連携の中での保健師のあり方を学ぶことができた】であり，【実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した】について一番多く語られていた．

(1)【実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した】

地域で活躍する地区組織のメンバーである民生委員について，「民生委員は，学校の帰りの見守りのイメージが強くて，地域とのかかわりはどうなんだろうと思っていたが，実習で民生委員の話を聞き，とても地域のことを気にかけて支援していることがわかった」，「民生委員は地域の方とのつながりをとても大切にしており，住民は民生委員からいろんな話を聞いているんだろうなと思った」として，〈実習での出会いから，地域を大切にする地区組織の役員の存在を知った〉様子を語っていた．さらに，「民生委員や健康推進委員は，行政と地域住民をつなぐパイプ役を果たしてくれていると強く思った」，「困り事をかかえる住民を早く発見し，必要な資源に結びつけることができる部分で民生委員はすごいと思った」，「民生委員や健康推進委員の方と関わらせていただく中で，地域住民の生活を守ってくれている大事な存在であると思った」と，〈実習で見た地区組織の役員達の活躍する姿から，その役割の大切さを学んだ〉と実習に出向き初めて知った地区組織の役員の活躍の様子を語っていた．

(2)【実習の現場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ】

実習では他職種や住民との会議等に参加する中で，「民生委員会で，保健師は介護予防のチェックリストの必要性について，民生委員や保育園長といった会議の参加者自身が自分事として考え興味が持てるような話をし，そこから住民全体に広がることを意図しており，その時に漠然としていた地域住民と行政の連携・協働のイメージが明確になった」，「保健師は限られたマンパワーの中で，住民一人一人や地区で発言力のある人，健康推進委員等と適宜連携することで，できる事の幅が広がるということを実習で考えた」，「保健

師が住民と連携することで，住民さん同士のネットワークもつながり，公衆衛生看護の展開において大事だと思った」と〈実習で見た場面から，保健師と地区組織の人々との連携協働の意義を学んだ〉様子が語られた．

そして，それらの人々と保健師とのやり取りを学ぶ中で，「民生委員や健康推進委員などの地域のボランティアを行う人々に保健師の存在を知ってもらうと同時に，保健師もその人達が行っている実際の活動を把握しておくことは，保健師の業務を行う上でとても大切であると学んだ」，「健康推進委員会に参加した時に保健師が主導ですすめるのではなく，委員の人達で話している中に保健師がサポートに入ったり，聞かれた時に専門職として応えており，住民と連携する上ではサポートも大切なかかわりであることを実際に見ることができた」と，〈実習で見た場面から，保健師が地区組織人々との関わるうえで大切な姿勢を学んだ〉ことが語られていた．これらの学びを振り返り，「保健師が住民の方と連携することが大切だと思えた意味で実習は自分にとってとても大事な機会だったと思う」と〈実習で，保健師が住民と連携することが大切だと学ぶことができ，大事な機会となった〉ことを振り返っていた．

(3)【前期の講義で学んだ多職種連携の重要性について後期の多様な実習の中で実感できた】

講義と実習との連動の中で，「前期までのすべての授業で色々な施設の役割やそこで活躍する多くの専門職がいることを学んだ上で，実際の多職種連携の理解に役立った」，「発達障害者のプール教室に参加した際，保健師・保育士・理学療法士・水泳の先生がおり，教室の時はプールで一緒に遊んでいたように見受けたが，カンファレンスの際に保健師だけでは気づけないそれぞれの専門性から見た意見が活発に出され，多様な視点からの学びが多く，連携の大切さを感じた」，「複数の母子保健事業で，保健師は保育士や子育て支援センターのスタッフといった普段の子どもの様子を見ているスタッフ達と多くの情報を共有し，気にかかる家庭を支援していることがわかった」という，〈前期の授業で多職種連携の重要性を知識として学び，実習では実際の活動からその重要性を実感した〉様子が語られていた．そして，連携の実際から「いくつかの施設実習で，実際にそこに行くことでその施設と市町村や保健所の保健師との連携，その施設と学校や保育園等と連携など，様々な多職種連携の実際の話を聞かせていただくことができて，現場における連携・協働のイメージができた」，「保健所実習でグループワークを行い，それを発表し合う中で保健所と市町村との関係，国との連携，それぞれの役割，どういうところで協働して支え合っているのかというところを知識としても得られ，イメージすることにもつながった」と，〈市町村実習・施設実習・保健所実習といった多機関の実習を通して，多くの職種が連携して機能していることを実感した〉と，具体的なイメージにつながった様子が語られた．

(4)【現場の実際から多職種連携の中での保健師のあり方を学ぶことができた】

多職種連携の中での保健師の在り方として，「保健事業で活躍している理学療法士は，その自治体以外の施設に派遣依頼しているという話を聞き，保健師は連携する相手を見つけ，つなげることも大切であると思った」，「高齢者の行っている種まきや収穫に地域の子ども達が参加できるように保健師がつなげていたが，参加者の楽しそうな姿を見て，高齢者と子育て世代と両方を知っている保健師の強みを活かしてお互いの取り組みをつなぎ合わせていくことも大切な活動であると思った」，「地区踏査の際，当初『保健師とここは関係ない』と言っていた農業関連施設で，今の地域の実態を自分たちに話してくれる中で，『ここと保健師とで連携するといいこともあるか

もしれんなあ』との言葉から，地域に出向いて情報を聞くことは連携の糸口を作る一歩になるかもしれないと感じた」と多様な場面で，〈保健師が行っている，つながる・つなげるための行動の大切さを実習の現場で感じた〉様子が語られた．

さらに，他職種と協働することが数多く求められる保健師の業務について，「市町村実習の中で，保健師は事務作業もできて何でも屋になりがちだが，一番大事にすべき住民の生活や健康を守るという仕事を疎かにしないためにも，他の職種の役割を知り，保健師の役割を知ってもらって，相互に認識した上で連携していくことが，住民のためにも大切であると強く思った」，「保健師の役割に迷いが生じたら，一旦法律に戻って根拠を確かめると良いと市町村実習でアドバイスをいただいたので，迷った時は基礎に戻って本来果たすべき所が疎かにならないようにしていきたいと思った」と，〈連携の中で，保健師の専門性を見失わないことの大切さを実習中の保健師の語りから学んだ〉ことも語られた．

表７　地域住民，関連職種と連携・協働をする視点をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した	実習での出会いから，地域を大切にする地区組織の役員の存在を知った	民生委員は，地元に愛着を持ちとても意欲的に行動をされていた　A
		民生委員は，学校の帰りの見守りのイメージが強くて，地域とのかかわりはどうなんだろうと思っていたが，実習で民生委員の話を聞き，とても地域のことを気にかけて支援していることがわかった　C
		地域のつながりが希薄化し,外国籍の方も増え地域づくりが難しくなる中で，民生委員が主体的に行動していることに驚いた　A
		民生委員は地域の方とのつながりをとても大切にしており，住民は民生委員からいろんな話を聞いているんだろうなと思った　A
	実習で見た地区組織の役員達の活躍する姿から，その役割の大切さを学んだ	民生委員や健康推進委員は，行政と地域住民をつなぐパイプ役を果たしてくれていると強く思った　H
		困り事をかかえる住民を早く発見し，必要な資源に結びつけることができる部分で民生委員はすごいと思った　C
		民生委員は，地域のことが好きで意欲的であり，だからこそ分かる部分を情報提供してもらうことで，保健師は地域の課題をより深く見つける事ができると思った　C
		民生委員や健康推進委員の方と関わらせていただく中で，地域住民の生活を守ってくれている大事な存在であると思った　H
実習の現場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ	実習で見た場面から，保健師と地区組織の人々との連携協働の意義を学んだ	民生委員会で，保健師は介護予防のチェックリストの必要性について，民生委員や保育園長といった会議の参加者自身が自分事として考え興味が持てるような話をし，そこから住民全体に広がることを意図しており，その時に漠然としていた地域住民と行政の連携・協働のイメージが明確になった　A
		保健師は限られたマンパワーの中で，住民一人一人や地区で発言力のある人，健康推進委員等と適宜連携することで，できる事の幅が広がるということを実習で考えた　E
		保健師が住民と連携することで，住民さん同士のネットワークもつながり，公衆衛生看護の展開において大事だと思った　F

	実習で見た場面から，保健師が地区組織人々との関わるうえで大切な姿勢を学んだ	民生委員や健康推進委員などの地域のボランティアを行う人々に保健師の存在を知ってもらうと同時に，保健師もその人達が行っている実際の活動を把握しておくことは，保健師の業務を行う上でとても大切であると学んだ　H
		健康推進委員会に参加した時に保健師が主導ですすめるのではなく，委員の人達で話している中に保健師がサポートに入ったり，聞かれた時に専門職として応えており，住民と連携する上ではサポートも大切なかかわりであることを実際に見ることができた　G
	実習で，保健師が住民と連携することが大切だと学ぶことができ，大事な機会となった	保健師が住民の方と連携することが大切だと思えた意味で実習は自分にとってとても大事な機会だったと思う　F
前期の講義で学んだ多職種連携の重要性について後期の多様な実習の中で実感できた	前期の授業で多職種連携の重要性を知識として学び，実習では実際の活動からその重要性を実感した	前期までのすべての授業で色々な施設の役割やそこで活躍する多くの専門職がいることを学んだ上で，実際の多職種連携の理解に役立った　G
		発達障害者のプール教室に参加した際，保健師・保育士・理学療法士・水泳の先生がおり，教室の時はプールで一緒に遊んでいたように見受けたが，カンファレンスの際に保健師だけでは気づけないそれぞれの専門性から見た意見が活発に出され，多様な視点からの学びが多く，連携の大切さを感じた　D
		複数の母子保健事業で，保健師は保育士や子育て支援センターのスタッフといった普段の子どもの様子を見ているスタッフ達と多くの情報を共有し，気にかかる家庭を支援していることがわかった　C
	市町村実習・施設実習・保健所実習といった多機関の実習を通して，多くの職種が連携して機能していることを実感した	いくつかの施設実習で，実際にそこに行くことでその施設と市町村や保健所の保健師との連携，その施設と学校や保育園等と連携など，様々な多職種連携の実際の話を聞かせていただくことができて，現場における連携・協働のイメージができた　E
		保健所実習でグループワークを行い，それを発表し合う中で保健所と市町村との関係，国との連携，それぞれの役割，どういうところで協働して支え合っているのかというところを知識としても得られ，イメージすることにもつながった　E
		市町村実習で，高齢者の介護予防事業と子育て支援事業の食育のそれぞれを行うスタッフや住民が協力して畑で野菜を育てたり収穫したりする事業に参加する機会があり，連携・協働の実際を学ぶことができた　E
現場の実際から多職種連携の中での保健師のあり方を学ぶことができた	保健師が行っている，つながる・つなげるための行動の大切さを実習の現場で感じた	保健事業で活躍している理学療法士は，その自治体以外の施設に派遣依頼しているるという話を聞き，保健師は連携する相手を見つけ，つなげることも大切であると思った　D
		高齢者の行っている種まきや収穫に地域の子ども達が参加できるように保健師がつなげていたが，参加者の楽しそうな姿を見て，高齢者と子育て世代と両方を知っている保健師の強みを活かしてお互いの取り組みをつなぎ合わせていくことも大切な活動であると思った　D
		地区踏査の際，当初『保健師とここは関係ない』と言っていた農業関連施設で，今の地域の実態を自分たちに話してくれる中で，「ここと保健師とで連携するといいこともあるかもしれんなあ」との言葉から，地域に出向いて情報を聞くことは連携の糸口を作る一歩になるかもしれないと感じた　B
	連携の中で，保健師の専門性を見失わないことの大切さを実習中の保健師の語りから学んだ"	市町村実習の中で，保健師は事務作業もできて何でも屋になりがちだが，一番大事にすべき住民の生活や健康を守るという仕事を疎かにしないためにも，他の職種の役割を知り，保健師の役割を知ってもらって，相互に認識した上で連携していくことが，住民のためにも大切であると強く思った　H
		保健師の役割に迷いが生じたら，一旦法律に戻って根拠を確かめると良いと市町村実習でアドバイスをいただいたので，迷った時は基礎に戻って本来果たすべき所が疎かにならないようにしていきたいと思った　H

６）人として専門職として自らが成熟する力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか（表８）

学生の語りから，37個のコードが抽出された．さらに分析した結果，15個のサブカテゴリー，3個のカテゴリーが抽出された．抽出したコード，サブカテゴリー，カテゴリーを表８に示す．

抽出されたカテゴリーは，【お互いが助け合い・認め合い・積極的に学ぶ姿勢がある環境の中で，自分の成長が実感できる1年であった】，【忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた】，【自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった】であり，【忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた】について一番多く語られていた．

(1)【お互いが助け合い・認め合い・積極的に学ぶ姿勢がある環境の中で，自分の成長が実感できる1年であった】

クラスメイトや教員との学びを振り返る中で，その存在と自分の成長とを結びつけ，「クラスメイトの知識や言葉の使い方から，そのチョイスに感心し，自分も次からはそういう使い方してみようかなと思った」，「みんなの発言力とかお互いに声を掛け合う優しさとかそういう所が自分もそうなりたいなって思った」，「先生方も一人一人を凄く見てくれて，人前で話すことが苦手という自分のコンプレックスを温かく見守ってくれて嬉しかった」，「自分は『できるから頑張るしかない』って思って今まで人に頼ることがなかったが，ここでは結構わからない事が多かった．でもみんなアドバイスをくれるし，先生方も否定せずに私の意見を受け止めてくれる感じがあるなって思うと，不安とか弱音を言える環境だと思って，不安や心配は『ここはどうすればいいの？』って言えたのは自分的に成長したと思う」と，〈クラスメイト，教員との関わりは，自分が成長するきっかけとなった〉様子を語っていた．そして仲間であるクラスメイトについて，「クラスの一人一人がこんなにたくさんの意見を持っているという環境が初めてだった」，「積極的にここはこうだよって指摘する人がいることが素敵だと思った」，「自分の意見を言い，相手からも意見をもらえることで価値観も広がった」と〈クラスメイト個々が積極性を持つ環境の中で良い刺激をもらえた〉様子を語り，共に学ぶ仲間を尊敬する発言もあり，「仲間で協力することがすごいし，大切だと感じた」と，〈クラスの中で，意見が言いやすく助け合える環境の大切さを感じられた〉様子を語っていた．さらに，「実習やグループワーク，クラスのみんなや色々な人と関わる機会から，自分の傾向が分かったり，いろいろな気づきがあった」と，〈多くの人との関わりの中で，自分の課題に気づくことができた〉場であることも語られていた．

また，「実習施設に恵まれた」と〈実習施設に恵まれた〉ことへの感謝の気持ちも述べられていた．

(2)【忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた】

1年間の課程の中で多様なカリキュラムが展開される中で学生Ｃは，「1日1日が濃すぎたが，自分にとってそれが凄く充実していた」と〈1日1日が非常に充実した日々であった〉様子を振り返り，「最初は上手く言わなきゃと本当に緊張していたし，どうしようっていうことが本当に多かったが，1年を振り返ってみると学ぶことが楽しいと初めて思えた」と，〈学ぶことが楽しいと初めて思えた〉自分を振り返っていた．そして，「レポートとか課題がたくさんあり，こんなこと今までなかったのでヤバイヤバイって思いながらも自

分の手帳で，何日までに何をやろうとか，1日の目標，1週間の目標とかを立てて達成できた時が，『あぁ自分頑張ったな』って思えて，そういうことを積み重ねていくうちに，ちょっとは成長できたと感じている」と，〈忙しいスケジュールを着実にこなしてきた自分を振り返ることで，成長を実感できる〉発言をしていた．

(3)【自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった】

「グループワークの中で自分が得意なことだけではなく，自分の課題が見えてきて，それをどうにかしなしなければと思ったが，先生達からサポートしてもらったり，学生みんなで学び高めていくうちに，自分が成熟したいという思いに駆り立てられた」と，〈学びを重ねる中で，自分がもっと成熟したいという思いが増してきた〉様子が語られていた．また，実習や授業で出会う現役の保健師との出会いを通して，「外部講師の方の授業で，国際保健，感染対策，災害，僻地等，色々な分野のことを実際にそこで活躍している方から生の声を聞けたことで，ワクワクしてきたし，保健師って凄いなって思う機会となり，自分がこうなりたいっていう思いをかき立てられた」，「実習で，目指したい保健師像に出会えたことで，自分を高めたい，学びたいという自己研鑽するためのモチベーションも得られ，これからもっと成長していくためのベースを作り上げることができた」と，〈将来目指していきたい保健師像に出会えた〉ことも語られていた．さらに，「授業で，実際に今活躍されている保健師さん方の話を聞いた時にほとんどの保健師さんが，正解はないけど外せないところはあると言っており，常に保健師自身が前進して，住民1人1人や，保健事業に丁寧に関わることが求められると感じている」と，〈活躍している保健師は，1人1人の住民やひとつひとつの保健事業と丁寧に向き合い前進していることが共通していた〉としていた．それと同時に，「市町村実習で保健師さんが実際に働く姿から，専門職として学ぶ部分が凄くあって，自分がこれから学ぶべき部分のイメージがついた」，「家庭訪問や健康教育の演習で，知識が曖昧で基本的なところも抜けていることに気づき勉強不足を感じる中で，保健師として対象者さんに申し訳ない，恥ずかしいし，責任を感じ，もっと成熟しなくてはと感じた」と〈自分がこれから学び成長していくべき部分が明確になった〉ことを認識している様子も語られた．

この様に，自身の目標や課題を明確にする中で，「今，早く保健師になりたくて，家庭訪問などでも自分が未だできないところを早く勉強したいし，はやく『こうなんだ』と言えるようになりたいっていう思いが自分の中にあり，保健師として成長していきたいと思える様になった1年だった」，「こんなに人の生活に入って，健康を密に守れる仕事，こんなに人と関われる仕事はなかなかないと思い，とても魅力的に感じているので，人との出会いを大切にしながら，いろんなスキルを磨きたい」と，保健師という職業を魅力的にとらえ，〈保健師としてどんどん成長したいと言う思いが増すようになった〉様子が語られていた．そして，「実習で経験した住民さんの反応や，普段の生活の中で家族や友だちから看護師や保健師ということで，色々聞かれるので，常に勉強はしていきたいし，それはこれからも求められると感じている」，「地区踏査をしていると住民さんは保健師が来てくれることを求めている声を何度も聞く中で，よく先生達が授業で言う『出向く』ことの大切さを理解できた」と，〈人から頼られる専門職であることを実感する中で，これからも学び続けていきたいと思っている〉ことが語られた．

以上のように，保健師という仕事の魅力を

認識し，今後自分も保健師として成長していきたいことを語っていた．また，「自分の傾向として，お節介が出てしまい，その人の生活を変えたい，気づいて欲しいと言う思いが結構出てしまうが，外部講師の話を聞いていて，何かを変えるばかりではなく話を聞くだけの場面もあり，その中で住民との信頼関係を築くことが一番大事なのだと教えてもらいそれが響いたので，自分の傾向を客観的に見ながら，一番は住民のためを思って健康や生活を守っていけるような保健師を目指したいと思えた」と〈学びの中で気づいた自分の自己課題と向き合いながら今後も成長し続けていきたい〉思いを語り，長いスパンで自分を成長させようとする思いも語られていた．

表８　人として専門職として自らが成熟する力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えるか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
お互いが助け合い・認め合い・積極的に学ぶ姿勢がある環境の中で，自分の成長が実感できる1年であった	クラスメイト，教員との関わりは，自分が成長するきっかけとなった	クラスメイトの知識や言葉の使い方から，そのチョイスに感心し，自分も次からはそういう使い方してみようかなと思った　B
		教員やクラスメイトから褒められる場面が多く，褒められることに慣れていなかったので嬉しい気持ちになり，自分の良いところが分かった　B
		褒められることで自分の良いところが分かり嬉しかったので，自分も人を褒められる人になりたいと思った　B
		誰か気持ちが落ち込んでいる時はみんなで支え合えるそういうクラスメイトだったので，毎日のコミュニケーションとかかかわり方が自分にとってとても学びになった　A
		みんなの発言力とかお互いに声を掛け合う優しさとかそういう所が自分もそうなりたいなって思った　C
		先生方も一人一人を凄く見てくれて，人前で話すことが苦手という自分のコンプレックスを温かく見守ってくれて嬉しかった　C
		自分は『できるから頑張るしかない』って思って今まで人に頼ることがなかったが，ここでは結構わからない事が多かった．でもみんなアドバイスをくれるし，先生方も否定せずに私の意見を受け止めてくれる感じがあるなって思うと，不安とか弱音を言える環境だと思って，不安や心配は『ここはどうすればいいの？』って言えたのは自分的に成長したと思う　D
		この学校では，授業とか実習だけでなく，クラスメイトとのかかわりの中で，とても人間性が成長したと感じている　B
	クラスメイト個々が積極性を持つ環境の中で良い刺激をもらえた	クラスの一人一人がこんなにたくさんの意見を持っているという環境が初めてだった　B
		クラスの一人一人がこんなにたくさんの意見を持っていて，少人数制だから，意見が言いやすいのかもしれないが凄いことだと思った　B
		クラスメイトの積極性がすごいと思った　B
		みんなが凄い積極的に発言することが素敵だと思った　B
		積極的にここはこうだよって指摘する人がいることが素敵だと思った　B
		自分の意見を言い，相手からも意見をもらえることで価値観も広がった　A
	クラスの中で，意見が言いやすく助け合える環境の大切さを感じられた	仲間で協力することがすごいし，大切だと感じた　B
		クラスメイトに恵まれ，意見も言いやすい環境で，とても助け合い高め合える仲間だったと思う　A

	多くの人との関わりの中で，自分の課題に気づくことができた	実習やグループワーク，クラスのみんなや色々な人と関わる機会から，自分の傾向が分かったり，いろいろな気づきがあった　F
	実習施設に恵まれた	実習施設に恵まれた　A
忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた	1日1日が非常に充実した日々であった	実習とか授業だけではなく，学校生活の1日1日が本当に充実していたと思う　C
		1日1日が濃すぎたが，自分にとってそれが凄く充実していた　C
	学ぶことが楽しいと初めて思えた	最初は上手く言わなきゃと本当に緊張していたし，どうしようっていうことが本当に多かったが，1年を振り返ってみると学ぶことが楽しいと初めて思えた　C
	忙しいスケジュールを着実にこなしてきた自分を振り返ることで，成長を実感できる	レポートとか課題がたくさんあり，こんなこと今までなかったのでヤバイヤバイって思いながらも自分の手帳で，何日までに何をやろうとか，1日の目標，1週間の目標とかを立てて達成できた時が，『あぁ自分頑張ったな』って思えて，そういうことを積み重ねていくうちに，ちょっとは成長できたと感じている　C
		凄く成長できたと思った1年だった　A
自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった	学びを重ねる中で，自分がもっと成熟したいという思いが増してきた	グループワークの中で自分が得意なことだけではなく，自分の課題が見えてきて，それをどうにかしなしなければと思ったが，先生達からサポートしてもらったり，学生みんなで学び高めていくうちに，自分が成熟したいという思いに駆り立てられた　F
	将来目指していきたい保健師像に出会えた	外部講師の方の授業で，国際保健，感染対策，災害，僻地等，色々な分野のことを実際にそこで活躍している方から生の声を聞けたことで，ワクワクしてきたし，保健師って凄いなって思う機会となり，自分がこうなりたいっていう思いをかき立てられた　E
		実習で，目指したい保健師像に出会えたことで，自分を高めたい，学びたいという自己研鑽するためのモチベーションも得られ，これからもっと成長していくためのベースを作り上げることができた　A
		私も，具体的にこの保健師さんのこういう所が欲しいというところが見つけられた　A
	自分がこれから学び成長していくべき部分が明確になった	市町村実習で保健師さんが実際に働く姿から，専門職として学ぶ部分が凄くあって，自分がこれから学ぶべき部分のイメージがついた　F
		家庭訪問や健康教育の演習で，知識が曖昧で基本的なところも抜けていることに気づき勉強不足を感じる中で，保健師として対象者さんに申し訳ない，恥ずかしいし，責任を感じ，もっと成熟しなくてはと感じた　E
	保健師としてどんどん成長したいと言う思いが増すようになった	今，早く保健師になりたくて，家庭訪問などでも自分が未だできないところを早く勉強したいし，はやく『こうなんだ』と言えるようになりたいという思いが自分の中にあり，保健師として成長していきたいと思える様になった1年だった　D
		保健師として，行動変容を促せるように住民さんに向き合えるためには，自分自身が人とのかかわりや人の経験から学んでいけるようにしたいなと思うようになった1年だった　F
		こんなに人の生活に入って健康を守れる仕事，こんなに人と関われる仕事はなかなかないと思い，とても魅力的に感じているので，人との出会いを大切にしながら，いろんなスキルを磨きたい　H
	人から頼られる専門職であることを実感する中で，これからも学び続けていきたいと思っている	実習で経験した住民さんの反応や，普段の生活の中で家族や友だちから看護師や保健師ということで，色々聞かれるので，常に勉強はしていきたいし，それはこれからも求められると感じている　G
		地区踏査をしていると住民さんは保健師が来てくれることを求めている声を何度も聞く中で，よく先生達が授業で言う出向くことの大切さを理解できた　B

	学びの中で気づいた自分の自己課題と向き合いながら今後も成長し続けていきたい	自分の傾向として，お節介が出てしまい，その人の生活を変えたい，気づいて欲しいと言う思いが結構出てしまうが，外部講師の話を聞いていて，何かを変えるばかりではなく話を聞くだけの場面もあり，その中で住民との信頼関係を築くことが一番大事なのだと教えてもらいそれが響いたので，自分の傾向を客観的に見ながら，一番は住民のためを思って健康や生活を守っていけるような保健師を目指したいと思えた　H
		この一年の学校生活を通して，いろんな事が本当に同時進行で進む中で，計画性を持つという自分の課題を見つけることができた　E
	活躍している保健師は，1人1人の住民やひとつひとつの保健事業と丁寧に向き合い前進していることが共通していた	授業で，実際に今活躍されている保健師さん方の話を聞いた時にほとんどの保健師さんが，正解はないけど外せないところはあると言っており，常に保健師自身が前進して，住民1人1人や，保健事業に丁寧に関わることが求められると感じている　G

考　　察

本研究の目的は，本学専攻科地域看護学専攻においてカリキュラムを修得した学生達がDPで示されている項目についてどのような学びを得て，どれくらい到達したと捉えているのかを明らかにし，今後のカリキュラム編成の一資料とすることである．以下に，DPの項目についてどの場面でどのように学びどれくらい修得できたと考えているかについてFGIの結果から得られた具体的な評価内容を考察する．

1．学生達は実践に適用できる公衆衛生看護の知識を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学び，どれくらい修得できたと考えているか

学生達は，年度当初，学内教員により『公衆衛生看護とは何か』，『保健師の看護活動とはどのようなものであり，どのような役割を果たす職種であるのか』といった保健師活動の概要について講義を受けている．井伊[6]は，日本において保健師活動は，健康課題への対応と解決の必要性から発展してきたものであり，こうした実績を踏まえると『保健師が業として行う保健指導』は，対象も活動の場も制限もなければ限度もなく，まさに地域全体を対象としてあらゆる健康レベルに対応するが，保健師の第一義的な役割は疾病などの健康障害の予防であり，そのための固有の専門的方法論を構築してきたと述べている．本専攻科のカリキュラムを受講する学生達は，看護師教育の過程を終え，原則として看護師資格を取得している．また，医療現場等で実際に看護師として業務に従事してきた者もいる．看護師の行う看護活動は，疾患をもった患者や療養者及びその家族を対象とし，看護過程の展開を思考し，実践につなげる．一方で，保健師養成を目的とした本専攻科のカリキュラムでは，今まで看護師教育で修得してきた視点をさらに広げ，個を対象とした看護展開に加え，地域全体のあらゆる健康レベルの人々を対象に，健康障害の予防を一義的にする視点を強調した講義が展開される．その際に，対象者が住む地域の自然・文化，そこで織りなされる地域の人々の生活や住民同士のつながり，病気になっていない人の健康課題等も看護対象として捉え，焦点を広げた思考が求められる．この様な公衆衛生看護学の思考が求められる中で，学生達は講義開始当初，「講義だけでは何が何故大切なのか理解しづらかった」，「講義の内容を理解するために何かと関連づけたかったが，何と関連づけて良いのか最初はわからなかった」と，その難しさを感じていた．しかし，知識修得のための学内教員の講義が終了した後，各現場で活躍している保健師による講義，保健師活動の実際を見聞きする実習において，受動的

に知識を得るだけではなく，グループディスカッション，さらには自己学習を重ねたことにより，【学内教員に加え，各現場で活躍する外部講師の講義，実習体験を重ねる中で，自ら能動的に取り組むことで「保健師とは何をする人なのか」の理解が深まった】という結果につながっていた．さらに，【グループディスカッションやレポート作成により，視野が広がり，知識の定着につながった】，【講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった】，【得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい】と，自らが実践に適用できる公衆衛生看護の知識について，本学のカリキュラムを通して修得してきたことを実感していることが確認できる．

２．学生は，実践に適用できる公衆衛生看護の技術を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているか

保健師が実践する公衆衛生看護技術を佐伯[7]は，公衆衛生看護の目的である社会的公正の規範にもとづき，人権が保障（尊重）され，全ての人々が健康で安全な生活が送れることをめざして，その実践に向けて行われる公衆衛生看護の実践活動のための目的で意図的な行為であるとしている．この技術の実践対象は，個人，家族，人びと（集団，ポピュレーション），地域組織，地区/小地域（コミュニティ），社会システム（自治体，企業，学校等）と多様で重層的なエコシステムであり，これらの対象がもつ健康課題は，健康増進をめざすものから，一次予防，二次予防，三次予防，安らかな死へと広域である[7]．この様に広域な対象に対して実践する看護技術に関して，学生達は，個人・家族を対象とした保健指導について，〈家庭訪問は，学内での授業・実技演習による自己課題の明確化・学生間の学び合いによる課題克服，実習での実践といった過程の中で，基礎的な手技を身につけることができた〉と，手技的な技術を修得できた様子を語っていた．また，地域の集団を対象とした保健指導については，〈健康教育は，前期の学内演習，後期実習での実践を通して，資料作成・話し方などの基礎的な手技を獲得できた〉と，前期と後期のカリキュラムの連動の中で，手技獲得を実感していた．特に，特定保健指導等の健康診断の結果を用いた予防的視点での対象とのかかわりが求められる保健指導においては，「保健指導論と健康生活論で，メタボリックシンドロームについて各自で資料を作りメカニズムについて発表し合う中で，他の学生の話し方・説明の仕方や資料の作り方を見聞きすることで，説明や指導の仕方がとてもイメージでき，実習の実践に結びついた」と【学内と実習の学びの過程の中で，保健指導の基礎的な技術を獲得できた】と実感していた．しかし一方で，地域において多様な背景のもと様々な特徴をもつ対象と対面し，保健指導を展開するためには，〈住民に効果的な保健指導をするためには保健師自身に十分な知識が必要であり，その知識を相手にわかりやすく伝えることは非常に難しい技術であると感じた〉と，【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】様子も語られていた．

個人，家族，人びと（集団，ポピュレーション），地域組織，地区/小地域（コミュニティ），社会システム（自治体，企業，学校など）を広く分析するために行う地域診断については，「地区踏査で地域から情報を得るということは当初難しかったが，前期・後期の実習の中で，学生間で自己の振り返りをし指導者のアドバイスを元にして経験を重ねたことで，積極的に情報収集のできる術を修得できたと実感している」と，現場の保健師からのアドバイスを受けながら自己の学びを深め，【前期・後期を通しての積み重ねにより地域診断における情報収集技術が獲得でき

た】様子が語られていた．そして，「前期と後期の長期間の実習があることで，住民と関われる機会がたくさんあり，何度も会って顔を覚えることの大切さやどうすれば住民から話を聞くことができるのかを体験を通して学べ，自分に足りないコミュニケーション能力という技術を上げられたと思う」と，住民との出会いの中で，保健師として【地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション技術を高めることができた】ことを肯定的に捉えていた．

佐伯[8]は，公衆衛生看護技術には，対人支援における手技，思考技術，状況に応じて相互作用を伴う技術があるとし，保健師の活動は抽象度が高く，技術が見えにくいとしている．今回の結果においても，「保健指導の技術的評価は，手技的なものの評価ではなく，対象者自身が行動変容の必要性を理解して実践できるようになるかという点なので，自己評価がしづらく技術強化がしにくいと感じた」と，【保健師の技術は自己評価が難しいと感じた】様子が語られていた．さらには，「手技的なことは保健師の技術のほんの一部であり，本当に必要な技術は自分が就職した自治体においてその地域の特性を知った上で，そこに合わせた保健活動が展開できる力を学び続け，それを修得していくことであるとこの学校の実習を通して学べた」「生活習慣病予防の指導で，個人の状態を分析しそれを本人と共有しながら行う保健指導は，実習を終えた今でも凄く難しく多分これからもずっと悩んでいくと思うが，そこと向き合うことの大切さに気づけたことが大切な学びだった」等と【保健師に総体的に必要な技術と今後その力を向上するための自己課題を認識できた】様子が多く語られていた．学生らは，実習現場に出て住民と対面し関わらせていただき，実際の保健師活動を見聞きする中で，保健師としてのスタートラインに立つ自分の取り組み方と技術面での今後の課題が見えてきたことを，希望的な展望も含めて捉えていた．保健予防活動における看護技術は，すべてのライフステージにおける多様な対象の健康行動とそのための意識・自己決定を支えるものである．牛尾[9]は，コミュニティを対象にした場合，状況を左右する変数は，多様な社会・環境レベルが重層的複層的に拡がり無限とも言え，保健師の実践には同じ方法が全く同じ結果をもたらすものは一つとしてなく，常に応用が求められるゆえに，経験を通して専門職としての実践力を高め続けると述べている．学生が，保健師として自分に必要な力量形成は今後の現場における業務の展開の中で続けられていくことを，実習の学びの中で気づけていることは大きな成果であると考える．

３．学生は，予防的視点を持って公衆衛生看護に取り組むことのできる力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているか

学生は，保健師の一義的な役割とされる疾病などの健康障害の予防[6]について，【自分自身の思考を治療的視点から予防的視点に変換するのに苦労した】としながらも，【予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた】，【保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ】とし，さらに実習で対面した【住民の姿から予防的アプローチの大切さが学べた】ことを語っている．また，自らも一生活者であることを再認識し，【予防的視点を持って生活することは，生活者である自分自身にも必要であることに気づいた】としていた．末永[10]は，保健師の実践に求められる視点として生活者の視点を挙げ，この視点は，保健師も地域住民も，生活者であるという点で（健康課題をもち，解決のための知恵・技術を持つという意味で），対等であり，共通の目標でつながることができ，協働できると考える視点にも連動すると述べている．

学生達は学習を通し，顕在化していない課題にも目を向けられるようになってきた．その上で，可能な限り健康課題や生活問題の発生，拡大及び深刻化を予防していこうとする予防の視点[10]をもった公衆衛生看護への取り組みに関する学びについて問われた際に，生活者の視点を持って思考し，住民との対面からその学びを深められた点を語っていると考える．さらに予防的視点を持って，看護展開を行う方法を実習における保健師の実践の姿から学ぶことができていることが確認できる．

4．学生は個別課題と地域課題をつなげて考えられる視点を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているか

保健師の2007年問題に関する検討会報告書[11]において，保健師の継承すべき能力としてあげられている『みる』『つなぐ』『動かす』という言葉について，齋藤[12]は，『みる』ことは，つまり観察することの実践の始まりであるとともに，実践のすべての過程を通して非常に重要な能力であり，保健師は『みる』という行動をとりつつ，個人や組織をつなげて，地域住民が主体的に地域を変化させることを意図して支援しており，さらには変化したことの成果を判断し次の取り組みにつなげていると述べている．この一連の『みて』『つないで』『動かす』過程に必要となる地区踏査において学生達は，「実習中にその地域に多い職業について，実際にその場に出向き仕事の内容を見学させていただけたので，それがどういう健康課題につながるかを知ることができた」「実習に行った○○町では，糖尿病や透析をしている人がとても多く，自家製の梅やらっきょう，味噌汁などをいただくと味がとても濃くて，こういうことが関連しているんだと実感した」「足腰が悪く思うように買い物に行けず配食サービスを利用している方の家に訪問した際にその家の周辺が急な坂にあることを知り，後日地区踏査でその坂を実際に歩いてみてそのきつさを体感することで配食サービスという自治体全体のサービスが1人の生活を支えることを実感した」というように【地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた】と語っていた．一方で，それらを実習中に自力で捉えるのはまだまだ困難であるものの保健師の力を借りることで，【実習の中で個別課題と地域課題を繋げて捉えるための自己課題を認識した】様子も語られていた．また【授業で外部講師が提示してくれた実際の事例を通して個別課題と地域課題をつなげ，事業化することを学んだ】ことが語られており，保健師に求められる『みる』『つなぐ』『動かす』一連の機能の実際を，住民の生活の様子や生の声，実際にそこで活躍する保健師の語りや姿から見聞きし具体的な理解を深めていると考える．

5．学生は，地域住民，関連職種と連携・協働をする視点をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているか

学生らは，【実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した】，【実習の現場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ】，【前期の講義で学んだ多職種連携の重要性について後期の多様な実習の中で実感できた】，【現場の実際から多職種連携の中での保健師のあり方を学ぶことができた】と，実習の現場における住民および多職種の方々との出会いの中で．保健師活動は決して保健師だけで展開できるものではなく，地域の多くの人との連携・協働が不可欠であることを多くの場面で体感し言語化している．地域社会のつながりが希薄化しているとされる現在，それまでの生活の中で地域住民同士のつながりを体感する経験がほとんどなかった学生も多い．そのような

経験値の中で，実際に地元の人々の健康の為に地区活動を展開している住民の姿と言葉にふれたことは，学生にとって実習は講義で学んだ知識を具体的に理解する貴重な場であったと言える．さらに，『地域住民には凄い人がいる』という単なる驚きで終わるのではなく，それらの人々と連携するために保健師はどの様なことを大切にし，配慮・工夫しているのかを実習を通して学んでいる．

６．学生は人として専門職として自らが成熟する力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているか

少人数のクラスメンバーと共に，1年過程の展開の早いカリキュラムの中で多様な課題をこなしていく本専攻科の学びの中で，【お互いが助け合い・認め合い・積極的に学ぶ姿勢がある環境の中で，自分の成長が実感できる1年であった】，【忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた】といった肯定的な発言が多く見受けられた．さらに，「今，私，早く保健師になりたくて，家庭訪問などでも自分が未だできないところを早く勉強したいし，はやく『こうなんだ』と言えるようになりたいという思いが自分の中にあり，保健師として成長していきたいと思える様になった1年だった」，「こんなに人の生活に入って健康を守れる仕事，こんなに人と関われる仕事はなかなかないと思い，とても魅力的に感じているので，人との出会いを大切にしながら，いろんなスキルを磨きたい」と，今後の自分の保健師活動に夢を持つ言葉が聞かれる等，【自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった】姿も確認できた．松下[13]は，学士課程教育における地域/公衆衛生看護の教育でもっとも重要なことは，看護専門職として自分の頭で考えて判断するための判断基準と思考過程の基礎を身につけることで，身につけた判断基準と思考過程は変化する時代の中で，自分は看護専門職として何をすべきかを考える際のよりどころとなり，実践におけるその人の中心軸となっていくとしている．さらに，牛尾[14]は，学士過程教育では，「まるで保健師であるかのように思考する」ことを通してその根幹となる「もののみかた（理念や原理原則）」を学生自身のものとして修得し，卒業後に自らの実践力を高めていける，自己教育力を育成することが重要であると述べている．学生たちは，1年間のカリキュラムの中で，学内での講義，地域に出向く実習，および学びを整理する様々な課題に，目標を同じくする仲間と共に忙しいながらも充実して取り組んできた．その中で，今後，自分が看護職者としての実践の中で，よりどころとする判断基準や思考過程を身につけると共に，自らの実践力を高めていける自己教育力を身につけたことが語りから読み取れる．その学びの背景において，講義や実習で出会い学びの機会を提供してくれている現役保健師の活動の姿，そして，学生たちを温かく受け入れ地域で生活すること，暮らすことの真の姿を語り，見せてくれる住民の存在は欠かすことのできないものであることが確認できる．

７．まとめ

今回の調査により，本学のカリキュラム修得により学生たちはDPで示している内容について，自分たちは着実に身につけることができたと実感し，それらを自分の言葉として言語化できていることが確認できる．

これらの学びは，まず公衆衛生看護の理念と原理原則を学び，実践活動とを結びつける力を身につけるための教育と実践によって，より一層深まっていくと考える．その為，これらの学習成果をさらに向上させるためには，①学内の講義を通して理念・原理原則を学ぶ際に，それらが具体的な活動の中でどうい

う事象をさすのか，できる限り活動事例を用いた講義展開を目指す.

②引き続き演習を重視することで，学んだ理念・原理原則を具体的な知識・技術と共に活用する試みを行っていく.

③さらに実習を通して見聞きした保健師の実践活動や住民との関わり，学生自身の住民への援助の経験から，その中にあるそれまでに学んできた公衆衛生看護の理念・原理原則を確かめられるよう振り返りの機会を充分に設けていく.

といった講義・演習・実習の過程を連動させる中で，常に理念・原理原則という抽象的な概念と具体的な実践活動を結びつける学習を重ねていくことを意図したカリキュラム編成をめざしていく必要がある.

結　論

DPの項目についてどの場面でどのように学び，どれくらい修得できたと考えているかについてFGIの結果から，次のことが考えられた.

1．実践に適用できる公衆衛生看護の知識を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについて，【講義と実習の積み重ねを通し，知識が確かに自分のものになった】，【グループディスカッションやレポート作成により，視野が広がり，知識の定着につながった】，【得られた知識に満足せず，さらに深めていきたい】と実感していた.

2．実践に適用できる公衆衛生看護の技術を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについて，【学内と実習の学びの過程の中で，保健指導の基礎的な技術を獲得できた】とする一方で，【効果的に保健指導を行う為に必要な技術が明確化する一方で，その技術獲得の難しさを実感した】様子も語っていた．また，地域に出向く体験の中で，【前期・後期を通しての積み重ねにより地域診断における情報収集技術が獲得できた】，【地域に受け入れてもらうために必要なコミュニケーション技術を高めることができた】という手応えを感じていた．一方で，【保健師の技術は自己評価が難しいと感じた】【保健師に総体的に必要な技術と今後その力を向上するための自己課題を認識できた】と今後の課題も捉えていた.

3．予防的視点を持って公衆衛生看護に取り組むことのできる力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについて，【自分自身の思考を治療的視点から予防的視点に変換するのに苦労した】としながらも，【予防的視点をもった対象分析，アプローチの方法が学べた】，【保健師の姿から予防的視点で行う実践を学んだ】，【住民の姿から予防的アプローチの大切さが学べた】ととらえていた.

4．個別課題と地域課題をつなげて考えられる視点を本学カリキュラムのどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについては，【授業で外部講師が提示してくれた実際の事例を通して個別課題と地域課題をつなげ，事業化することを学んだ】【地区踏査で住民から聞く声と地域課題とが結びつくことを実感できた】とする一方で，【実習の中で個別課題と地域課題を繋げて捉えるための自己課題を認識した】という自己課題も認識していた.

5．地域住民，関連職種と連携・協働をする視点をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについて，【実習で出会った地区組織の役員の方々から，地区を大切に思い活躍する住民の存在とその役割を実感した】，【実習の現

場で保健師が地域の人々と連携することの意義とその姿勢のあり方を学んだ】と実習の場から多くの学びを得ていた.

6．人として専門職として自らが成熟する力をどの場面でどの様に学びどれくらい修得できたと考えているかについて，【お互いが助け合い・認め合い・積極的に学ぶ姿勢がある環境の中で，自分の成長が実感できる1年であった】【忙しいスケジュールをこなしながら，着実に成長する自分を実感できる1年が過ごせた】といった肯定的な振り返りと共に，【自分が目指す先が明確になる中で，学び続ける事の大切さと保健師として成長していきたいという意欲が具体的に持てるようになった】と，今後，保健師として成長していくことを前向きに捉えていた.

保健師として求められる考え方や知識・技術を学生自身が認識し，自己評価しながら自己を成長させる力につなげていけるように，本研究で得られた知見を今後のカリキュラム編成に生かしていきたい.

謝　辞

質問紙調査およびFGIにご協力くださいました学生の皆様に深く感謝いたします.

文　献

1）岸恵美子：保健師基礎教育の検討状況とこれからの本協議会の活動について．保健師教育，**4**（1），2-9，2020.

2）岸恵美子：保健師の教育とキャリア開発，新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版（編集：森永裕美子ほか），日本看護協会出版，東京，2019，pp. 51-54.

3）厚生労働省，看護基礎教育検討会報告書 令和元年10月15日.〈https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf〉（4 November 2020）

4）文部科学省高等教育局医学教育課，保助看法の定めるところの保健師教育における実態調査平成30年度版.〈https://www.mext.go.jp/content/20200930-mxt_igaku-1367161_7.pdf〉（4 November 2020）

5）平成29年度厚生労働省医政局看護課 看護職員確保対策特別事業 一般社団法人 全国保健師教育機関協議会 研究者代表 岸恵美子，保健師学校養成所における基礎教育に関する調査報告書　2018，〈https://www.zennokyo.jp/work/doc/n30-kisokyoiku-chosa.pdf#view=Fit&age=1)〉（4 November 2020）

6）井伊久美子：保健師とは．新版 保健師業務要覧 第4版2021年版（編集：井伊久美子），日本看護協会出版，東京，2021，p. 5.

7）佐伯和子：公衆衛生看護実践における方法/技術．公衆衛生看護学テキスト2　公衆衛生看護の方法と技術　第2版（編集：佐伯和子ら），医歯薬出版会社，東京，2022，p. 4.

8）同上，p. 5.

9）牛尾裕子：ワークブックの作成の意図と使い方．ワークブック 地域/公衆衛生看護活動事例演習（編集：牛尾裕子ほか），株式会社クオリティケア，東京，2019，p. 1.

10）末永カツ子：保健師の教育とキャリア開発．新版 保健師業務要覧 第4版2021年版（編集：森永裕美子），日本看護協会出版，東京，2021，p. 95.

11）日本公衆衛生協会，平成18年度「地域保健総合推進事業」保健師の2007年問題に関する検討会 報告書 平成19年3月.〈https://www.wam.go.jp/wamappl/bb13GS40.nsf/0/8ba2fa45e1b771634925732200168cae/$FILE/20070725_1haifu3.pdf〉（1 December 2021）

12）斉藤恵美子：保健師の基礎技術．新版 保健師業務要覧 第4版2021年版（編集：坂本真理子），日本看護協会出版，東京，2021，p. 180.
13）松下光子：ワークブックの基盤となる考え方．ワークブック 地域/公衆衛生看護活動事例演習（編集：牛尾裕子ほか），株式会社クオリティケア，東京，2019，p. 105.
14）牛尾裕子：ワークブックの基盤となる考え方．ワークブック 地域/公衆衛生看護活動事例演習（編集：牛尾裕子ほか），株式会社クオリティケア，東京，2019，p. 112.